

322
103

5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20

始



前本高等
女子師範學校
教授藤堂忠次郎先生
文學士 中村護光王
文學士 守屋秀顯先生

序手島繼藏編纂

國語漢文自習要覽

附 假名遣詳解

合名
會社
秀文社發行

122-103



勅語

朕惟フニ我カ皇祖皇宗國ヲ肇ムルコト宏遠ニ德ヲ樹ツルコト深厚ナリ我カ臣民克ク
 忠ニ克ク孝ニ億兆心ヲ一ニシテ世世厥ノ美ヲ濟セルハ此レ我カ國體ノ精華ニシテ教
 育ノ淵源亦實ニ此ニ存ス爾臣民父母ニ孝ニ兄弟ニ友ニ夫婦相和シ朋友相信シ恭儉己
 レヲ持シ博愛衆ニ及ホシ學ヲ修メ業ヲ習ヒ以テ智能ヲ啓發シ德器ヲ成就シ進ンデ公
 益ヲ廣メ世務ヲ開キ常ニ國憲ヲ重シ國法ニ遵ヒ一旦緩急アレバ義勇公ニ奉シ以テ王
 壤無窮ノ皇運ヲ扶翼スヘシ是ノ如キハ獨リ朕カ忠良ノ臣民タルノミナラス又以テ
 祖先ノ遺風ヲ顯彰スルニ足ラン
 斯ノ道ハ實ニ我カ皇祖皇宗ノ遺訓ニシテ子孫臣民ノ俱ニ遵守スヘキ所之ヲ古今ニ通
 シテ護テ之ヲ中外ニ施シテ悖ラス朕爾臣民ト俱ニ拳拳服膺シテ成其德ヲ一ニセン
 コトヲ庶幾フ

明治二十三年十月三十日

御名御璽

大正
 5. 4. 14
 内交

戊申詔書

朕惟フニ方今人文日ニ就リ月ニ將ミ東西相倚リ彼此相濟シ以テ其ノ福利ヲ共ニス朕ハ爰ニ益々國交ヲ修メ友義ヲ惇シ列國ト與ニ永ク其ノ慶ニ賴ラムコトヲ期ス顧ミルニ日進ノ大勢ニ伴ヒ文明ノ惠澤ヲ共ニセントスル固ヨリ内國運ノ發展ニ須ツ戰後日尙淺ク庶政益々更張ヲ要ス宜ク上下心ヲ一ニシ忠實業ニ服シ勤儉產ヲ治メ惟レ信惟レ義醇厚俗ヲ成シ華ヲ去リ實ニ就キ荒怠相誡メ自彊息マサルヘシ

抑我カ神聖ナル祖宗ノ遺訓ト我カ光輝アル國史ノ成跡トハ炳トシテ日星ノ如シ寔ニ克ク恪守シ淬礪ノ誠ヲ輸サハ國運發展ノ本近ク斯ニ在リ朕ハ方今ノ世局ニ處シ我カ忠良ナル臣民ノ協翼ニ倚藉シテ維新ノ皇猷ヲ恢弘シ祖宗ノ威德ヲ對揚セムコトヲ庶幾フ爾臣民其レ克ク朕ガ旨ヲ體セヨ

明治四十一年十月十三日

御名御璽

序

本書を讀んで感じた事が三ある。

其の一は卷頭に勅語詔書と皇室に關する事項とを掲げて、我國民が國語を學ぶに念々國民的思想を離してはならぬことを暗示して居る事である。修身や歴史に關する學科には當然這箇の用意は忘れられてはないが他の學科には兎角忽諸に附せられ易くあるを遺憾とする。殊に國民思想上に、至大なる關係を有する國語を學ぶ者には是非とも之を缺く事が出來ないのである。編者の此の點に注意を拂はれたるは敬服する。

其の二は本書の内容が國語漢文の習得上殆んど遺算ないまでに整備して居る事である。編者自ら言ふ如く普通の文法教科書には假名及連聲法を省いてあるから此に採録してある。之れが抑々本書の本書たる所で、即ち自習適用には必ず缺如してはならないものである。而かも本書に掲ぐる所總て叮嚀親切を旨としてありながら、漢字の熟語にまで立ち入らないのは、自習用書の陥り易い弊所を避け得たものと謂はれる。

其の三は本書編纂の動機が、恰も現下中等教育の刷新期に投じたる事である。由來生徒の學習法が、教師の冗漫なる講義註釋の下に、彼等の自習力を銷磨する事が少からぬを想到すれば、我々寒心に堪へぬ次第である。今日では追々其の誤を覺醒し來つたから、學習者の自習を便するに、否自習を鼓舞するに都合の善い著書を、歡迎する傾向を有して來た。幸に本書の出現に依りて、幾多學生を善導するであらうと思ふ。

以上の三感想は、果して本書の眞價を發揮し得たや否やは知らないが、蓋し中らずと雖も、遠からぬ事であらう。余は切に學生間に、本書を推奨したいものから、序文を乞はるゝまゝに、上記の感想を以て答へるのである。

大正五年二月

明石錦江城に面する茅屋に於て

藤 堂 梅 軒

日本人は語學を學ぶ上に、諸外國の人に比して、二重三重の負擔を荷ふて居る。日に月に學ぶべき事の多くなるに従つて、彌益此の感じが甚しい。しかし國字改良問題の解決が出来ない限りは、否でも應でも、吾々は依然として之に苦しむ外はない。しかし、同じ苦しむにしても、幾分なりとも之を軽くする方法はないかといふに、此の要求に應ずる最上の手段として、字引の利用といふ一事があるが、夫も餘り大部のものよりは、簡にして要を得た辭書やうのものを臺本として、夫れに自分で必要と思ふ書入をし、自分で自分の字引をこさへるといふのが、最も便利な事のやうに考へて居る。手島君の國語漢文自習要覽は恰も、予の所謂臺本に好都合なものである。予は予の學生に使用させて見たが、實際大分の便利を覺て居るのである。之を土臺に、此上の改善に改善を重ねらるゝならば、學生の國語學習上に、餘程便利なものが出來上る事であらうと、期待して居る次第である。

中 村 護

惟ふに國語の文法作文に關する、實用的知識、即ち國文に關する常識の必要なるは、論を俟たざる所、しかも斯る常識の缺乏の爲め、多大の不便を感じつゝあるは、單に余一人のみならず、余一人のみにあらざるべし。

畏友手島君は、國語科の教師として、中等教育に従事せらるゝ事多年、特に文法作文の上に深き興味を持たれつゝあり。茲に多年の實地經驗と、研究の上よりのものせられたる、一小冊子「國語漢文自習要覽」を上梓し、余に其の批評を乞はる。之れ蓋し、君が教鞭を取るの餘暇になりしものなり。余元より淺學短才、特に斯道に於て、何等造詣を有するものにあらず。寧ろ本書によりて啓發せらるゝ所甚多きのみ。余本書を通讀するに際し、聊所感あり、綴りて以て君の勞に酬ふんとはす。

今や坊間鬻ぐ所の國語作文に關する著者、其數決して尠しとせず。されど其或物は餘りに浩瀚に、餘りに繁錯にして、複雑多端なる今日の社會にあつて、精細なる斯學の研究に、餘裕を有せざる一般人士の、希望を滿すに足らず。元より實用を主とし、簡易を旨としたる小冊子の類もなきにあざれども、之れとて極めて杜選にして、誤謬多く、若しくは單に部分に偏して、全體を知り難き等、何れも十分の満足を與ふる

ものなし。今本書を讀むに至りて、始めて好個の指導書を得たるの感あり。編中蒐輯する所、悉く著者が多年の實地經驗より得たるものを、最も簡易に集録され、考證起原等に關する、専門的事項の如きは、凡て之れを省略し、勉めて實用に着眼せられたるを以て、一見直ちに所要の事項を見出す事を得、直ちに以て實用に供する事を得べし。且つ著者の用意の周到なる、國語作文に關する、凡ての常識的事項は、遺憾なく網羅し、盡されたるは、其の皇室に關する敬語表、大小活字の名稱、書簡體略字等を見ても明なるべし。本書の如きは、眞に國文に關する常識の寶庫として、一般人士日用文作法の好侶伴として、推獎に値するものなる事は、余の信じて疑はざる所なり。

守 屋 秀 顯

緒言

本書は師範學校、中學校、高等女學校、並に各種實業學校、國語漢文科に適用するは勿論、各學校教員、及一般讀書家の、參考に資する目的をもて編纂せるものなり。

今や文明の光輝しもわかず、都鄙もおしなべて、御代の恵みに浴しつゝ、學術研究到らぬ限なきぞ、洵に擇ばしきよはみなる。されど惜むらくは、學びの道徒に廣汎に、奧行漸く淺く殊に國語漢文科の如き、形式的教科にありては、實利主義の似而非なる論據にかられ、主として實用を處するに足れば可なりと斷じ、爲めに文字の書方、讀方、意義の誤用も、單に事通すれば用足れりと漸次本科の實質的價値を顧みるもの少く、特に此の誤字、及誤りたる新熟語を使用する事の多きは、中等教育に於て、其の弊の最も多きを認むるに至れり。

余本書をなす所以のものは、學習の常に正しき文字と、正しき文字の使用方に慣れしめ、之れが誤用を鮮少ならしめんが爲たり。余又世間普通の、國漢文字解など稱するものが、徒に生徒の研究的努力を減殺せしむる、姑息の便宜によりて成されたるに鑑み、こは寧ろよりて以て、自ら學究的興味を増進をなさしめんの企てに出でたり。多くの學生が、學習に興味少きは、之れが修業の進路に於て、方法の案出、及び其が學習の手躰を見出さざるにあり。本書は教科書に適用して直ちに用をなさず、之れを基礎として、更に自己の頭腦によりて、或ものを求めざるべからず運用の適否一に其の人にあり。故に稱して自習適用とはいふ。見む人心して其の正しき使用の方法を全からしめむ事を。

余本書を成すに當りて、數多先輩の指導と、先輩の研究に成る、幾多の良書を參考として、其の誤りなきを期せり。素より余自身の創作にあらず。尙又上梓に際し、前奈良女子高等師範學校教授藤堂忠次郎先生並に大分縣竹田高等女學校校長文學士中村護氏、及び神戸親和高等女學校教頭文學士守屋秀顯三氏、特に序として稿を寄せ本書に得難き高評を給ひし、深き好意を感謝す。

大正五年二月

扇港諏訪山麓

編

者

識

凡例

- 一、本編は冒頭に、教育勅語並に戊申詔書を以てし、尙皇室に關する二三の事項を掲げたり。こは我國民教育上須臾も忘るべからざるものなればなり。
- 一、本編は内容未だ至つて貧弱加ふるに索引の體裁必ずしも全からざるものあり、されど一度其の見出しを了得せんか、運用自在なるべし。
- 一、本編中、假名及び連聲法をあげたるは、普通の文法教科書に煩を避けてこれ等を省けるが多ければなり。
- 一、漢字を掲げて單に讀方及び大體に於ける用法意義を示したるも、熟語として意義を示さず、こは學習の妨げをなし、且つ學習の力を減殺する弊あればなり。

目次

| | | | |
|---------------------|----|-------------------|-----|
| ○皇室 | 一 | 四、延音 | 二八 |
| ○皇族 | 二 | 五、略音 | 二八 |
| ○御歴代及び年號紀元對照表 | 三 | 六、通音 | 三〇 |
| ○朝鮮王公族 | 二二 | 1 普通 2 韻通 | |
| ○皇室に關する敬語表 | 二二 | 七、轉音 | 三二 |
| ○假名 | 二七 | 八、音便 | 三三 |
| ○假名 | 二七 | 漢字 | 三七 |
| 一、清音 | 二七 | 一、偏旁冠の名稱 | 三八 |
| 1 片假名 2 平假名 3 平假名變體 | 二七 | 1 偏 2 旁 3 冠頭 4 脚 | |
| 二、濁音 | 二九 | 二、漢字典の引方 | 四〇 |
| 三、半濁音 | 二九 | 三、漢字の書體及び活字の名稱 | 四一 |
| 四、拗音 | 二九 | 四、漢字の音訓 | 四二 |
| 五、撥音 | 二九 | 五、和字 | 四五 |
| 六、促音 | 二〇 | 六、國訓の漢字 | 四六 |
| 七、長呼音符 | 二〇 | 七、漢字の正體及び別體 | 四七 |
| 八、踊字 | 二〇 | 八、相似字辨 | 五〇 |
| 九、合略假名 | 二〇 | 九、同訓字辨 | 六四 |
| ○連聲法 | 二一 | 一〇、誤り易き熟語の讀方及び難訓解 | 一〇五 |
| 一、音調 | 二一 | ○附錄假名遣 | 一 |
| 二、轉呼音 | 二二 | 1 國語假名遣 | 一 |
| 三、約音 | 二六 | 2 字音假名遣 | 一六 |

皇室

| | | | | | |
|---|--|--------------------------------|--|--|--|
| 百二十二代 今上天皇御名嘉仁 ヨシヒト 明治天皇第三皇子 | | 御降誕 明治十二年己卯八月三十一日 | | 立太子 明治二十二年己丑十一月三日 | |
| 皇后宮御名節子 チヨコ 故從一位大勳位公卿 九條道孝公第四女 | | 御誕生 明治十七年甲申六月二十五日 | | 御入興 明治三十三年庚子五月十日 | |
| 第一皇子 皇太子 御名裕仁 ヒロヒト | | 御誕生 明治三十四年辛丑 四月二十九日 | | 第二皇子 淳宮 雍仁親王 ヤスヒト 御誕生 明治三十五年壬寅 六月二十五日 | |
| 百二十一代 明治天皇 孝明天皇第二皇子 | | 御降誕 嘉永五年壬子九月二十二日 陽曆十一月三日 | | 御即位 明治元年戊辰八月二十七日 | |
| 御踐祚 慶應三年丁卯正月九日 | | 大嘗會 明治四年辛未十一月十七日 | | 御崩御 明治四十五年七月三十日 | |
| 御元服 慶應四年戊辰正月十五日 | | 皇太后 宣下 明治元年戊辰十二月二十八日 | | 昭憲皇太后 故從一位一條忠香公第三女 明治天皇皇后 | |
| 御誕生 嘉永三年庚戌四月十七日 陽曆五月二十八日 | | 御崩御 大正三年四月十一日 | | 御入內 明治元年戊辰十二月二十八日 | |

皇族

| | | | | | | | |
|--|---|---|--|--|--|--|---|
| 高松宮 宣仁親王 今上天皇第三皇孫 御誕生 明治三十八年乙巳一月三日 | 有栖川宮 宣仁親王 故從四位伯耆守 口直博第七女 贈從二位前田慶 宗第四女 御誕生 安政二年乙卯五月十二日 元治元年甲子二月八日 | 伏見宮 貞愛親王 故一品邦家親王 第十四子 御誕生 安政五年戊午四月十八日 安政五年戊午五月二日 明治八年乙亥十月十六日 明治十五年壬午九月二十三日 | 見宮 利子女王 故一品邦家親王 第四女 御誕生 明治八年乙亥十月十六日 明治十五年壬午九月二十三日 | 華頂宮 博忠王 大勳位博恭王第二子 御誕生 明治三十五年正月二十六日 | 山階宮 武彥王 故大勳位菊麿王第一子 御誕生 明治三十二年戊戌二月十三日 明治七年甲戌三月七日 | 賀陽宮 恒憲王 故大勳位邦憲王第一子 御誕生 明治三十二年戊戌一月二十七日 慶應元年乙丑十月二十日 | 久邇宮 邦彦王 故大勳位朝彥親王第三子 御誕生 明治六年癸酉七月二十三日 明治十二年己卯十月十九日 |
| 梨本宮 守正王 故大勳位朝彥親王第四子 御誕生 明治七年甲戌三月九日 明治十五年壬午二月二日 | 朝香宮 鳩彦王 故大勳位朝彥親王第八子 御誕生 明治二十年丁亥十月二日 明治二十四年辛卯八月七日 | 東宮 稔彦王 故大勳位朝彥親王第九子 御誕生 明治二十年丁亥十二月三日 | 北白川宮 成久王 故大勳位能久親王第三子 御誕生 明治二十年丁亥四月十八日 文久二年壬辰八月八日 明治二十三年庚辰一月二十八日 | 竹田宮 恒久王 故大勳位能久親王第一子 御誕生 明治十五年壬午九月二十二日 | 閑院宮 載仁親王 故一品邦家親王第十六子 御誕生 慶應元年乙丑九月二十二日 明治五年壬申五月二十五日 | 東伏見宮 依仁親王 故一品邦家親王第十七子 御誕生 慶應三年丁卯九月十九日 明治九年丙子八月二十九日 | |

御歴代及び年號紀元對照表

| 御即位紀元 | 天皇御歴代 | 年號又は御在位年間 | 主なる出來事及び著名の人並に著名の圖書 |
|-------|-------|-----------|--|
| 一 | 一神武 | 七六 | |
| 八〇 | 二綏靖 | 三三 | |
| 一一三 | 三安寧 | 三八 | |
| 一五一 | 四懿德 | 三四 | |
| 一八六 | 五孝昭 | 八三 | |
| 二六六 | 六孝安 | 一〇二 | |
| 三七七 | 七孝靈 | 七六 | |
| 四七七 | 八孝元 | 五七 | |
| 五〇四 | 九開化 | 六〇 | |
| 五六四 | 一〇崇神 | 六八 | 天照大神を伊勢に祭る。四道將軍を置く。船舶を造る。天照大神の廟を伊勢の五十鈴川上に建つ。殉死を禁ず。土偶の始め。 |
| 六三二 | 一一垂仁 | 九九 | |

上古時代

| | | | | | |
|------|----|----|--------------|-------------------------------------|--|
| 一一三三 | 四〇 | 天武 | 白鳳一四、 朱鳥一 | | |
| 一一三二 | 三九 | 弘文 | 八箇月 | 壬申の亂。 | |
| 一一三一 | 三八 | 天智 | 一〇 | 南淵請安。藤原鎌足内大臣となる。 | |
| 一一一五 | 三七 | 齊明 | 七 | 皇極帝重祚 | |
| 一一〇五 | 三六 | 孝德 | 白雉五 | 年號始る。大化の新政。 | |
| 一一〇二 | 三五 | 皇極 | 三 | | |
| 一一八九 | 三四 | 舒明 | 一三 | | |
| 一一五三 | 三三 | 推古 | 三六 | 佛教を興し佛寺を建つ。蘇我氏の横行。使及び留學生を 隋に遣はす。 | |
| 一一四八 | 三二 | 崇峻 | 五 | 廢戶皇子(聖德太子) 憲法十七條を定む。 | |
| 一一四六 | 三一 | 用明 | 二 | | |
| 一一三三 | 三〇 | 敏達 | 一四 | | |
| 一一〇〇 | 二九 | 欽明 | 三二 | 佛像來る。 | |
| 一一九六 | 二八 | 宣化 | 四 | | |
| 一一九四 | 二七 | 安閑 | 四 | | |
| 一一六七 | 二六 | 繼體 | 二五 | | |

| | | | | | |
|------|--------|----|-----------|--------------------|--|
| 一一五九 | 二五 | 武烈 | 八 | | |
| 一一四八 | 二四 | 仁賢 | 一一 | | |
| 一一四五 | 二三 | 顯宗 | 三 | | |
| 一一四〇 | 二二 | 清寧 | 五 | | |
| 一一二七 | 二二 | 雄略 | 二三 | 蠶桑の業を起し機織を始む。 | |
| 一一一四 | 二〇 | 安康 | 三 | | |
| 一〇七二 | 一九 | 允恭 | 四二 | | |
| 一〇六六 | 一八 | 反正 | 五 | | |
| 一〇六〇 | 一七 | 履仲 | 六 | | |
| 九七三 | 一六 | 仁德 | 缺位二 八六 | 田租を除く事三年。諸國に吏官を置く。 | |
| 九三〇 | 一五 | 應神 | 四一 | 百濟の阿直岐來朝。論語、千字本來る。 | |
| 八六一 | (神功皇后) | | 六九 | 新羅の親征。 | |
| 八五二 | 一四 | 仲哀 | 九 | | |
| 七九一 | 一三 | 成務 | 六〇 | 大臣の稱始まる。 | |
| 七三一 | 一二 | 景行 | 六〇 | 日本武尊。 | |

奈良朝時代

| | | | | |
|--------------|------|-------------------------|----|------------------------------|
| 一三三七 | 四一持統 | | 一〇 | 高向玄理。 |
| 一三五七 | 四二文武 | 文武四、大寶三、慶雲四 | | |
| 一三六八 | 四三元明 | 和銅 | 七 | 柿本人麿。銅錢を鑄る。都を奈良に遷す。 |
| 一三七五 | 四四元正 | 雲龜二、養老七 | | 日本紀成る。風土記。 |
| 一三八四 | 四五聖武 | 神龜五、天平二〇 | | 古事記。日本書記。萬葉集。舍人親王。山上憶良。山邊赤人。 |
| 一四〇九 | 四六孝謙 | 天平勝寶八、天平寶字二 | | 僧行基。東大寺大佛成る。 |
| 一四一九 | 四七淳仁 | 天平寶字 | 六 | 橘諸兄。 |
| 一四二五 | 四八稱徳 | 孝謙帝重祚 天平神護二 神護景雲三 | | 和氣清麿。 |
| 一四三〇 | 四九光仁 | 寶龜一一 天應一 | | 阿部仲麿。吉備真備。 |
| 平安朝時代 | | | | |
| 一四四二 | 五〇桓武 | 延略 | 二四 | 都を山城に遷す。坂上田村麿。大伴家持。續日本紀。 |
| 一四六六 | 五一平城 | 大同 | 四 | 古語拾遺。 |
| 一四七〇 | 五二嵯峨 | 弘仁 | 一四 | 僧空海高野山を開く。新撰姓氏錄。 |
| 一四八四 | 五三淳和 | 天長 | 一〇 | 僧最澄。藤原冬嗣。勸學院立つ。 |

| | | | | |
|------|-------|----------------------------|----|---|
| 一四九四 | 五四仁明 | 承和一一、嘉祥三 | | 良峰安世。日本後記。 |
| 一五一一 | 五五文徳 | 仁壽三、齊衡三、天安二 | | 藤原良房太政大臣となる。小野篁、學館院立つ。 |
| 一五一九 | 五六清和 | 貞觀 | 一八 | 良房攝政となる。續日本後記。竹取物語。 |
| 一五三七 | 五七陽成 | 元慶 | 八 | 藤原基經攝政となる。文徳實錄。 |
| 一五四五 | 五八光孝 | 仁和 | 三 | 菅原是善。 |
| 一五四九 | 五九宇多 | 仁和一、寛平九 | | 基經關白となる。伊勢物語。在原業平。斐學院淳和院起る。 |
| 一五五八 | 六〇醍醐 | 昌泰三、延喜二二、延長八 | | 菅原道真貶せらる。僧正遍照。猿丸大夫。文屋康秀。小野小町。喜撰法師。菅原道真。藤原時平。古今和歌集。紀友則。凡河内躬恒。三善清行。 |
| 一五九一 | 六一朱雀 | 承平七、天慶九 | | 忠平攝政となる。平將門叛す。 |
| 一六〇七 | 六二村上 | 天曆一〇、天徳四、慶和 | | 紀貫之。——土佐日記。後撰和歌集。 |
| 一六二八 | 六三冷泉 | 安和 | 二 | 小野道風。空穂物語。大和物語。 |
| 一六三〇 | 六四圓融 | 天祿三、天延三、貞元二 天元五、永觀二 | | 落窪物語。 |
| 一六四五 | 六五花山 | 寛和 | 二 | |
| 一六四七 | 六六一條 | 永延二、永祚一、正暦五 長徳五、長保五、寛弘八 | | 平兼盛。清原元輔。素性法師。紀内侍。相模。拾遺集。 |
| 一六七二 | 六七三條 | 長和 | 五 | |
| 一六七七 | 六八後一條 | 寛仁四、治安三、萬壽四 長元九 | | 藤原道長。大貳三位。紫式部。清少納言。和泉式部。赤染衛門。伊勢大輔。小式部内侍。源氏物語。枕草紙。住吉物語。 |

| | | | | |
|------|----|-----|---------------------------------|----------------------|
| 六六九七 | 六九 | 後朱雀 | 長曆三、長久四、寛徳二 | |
| 一七〇六 | 七〇 | 後冷泉 | 永承七、天喜五、康平七 治曆四、 | 源頼義。安倍頼時を討つ前九年の役。 |
| 一七二九 | 七一 | 後三條 | 延久 四 | 記録所を置く。 |
| 一七三三 | 七二 | 白河 | 延久一、承保三、承曆四 永保三、應保三、 | 今昔物語。 |
| 一七四七 | 七三 | 堀河 | 寛治七、嘉保二、永長一、承 徳三、康和五、長治三、嘉承三 | 後拾遺集。後三年の役。源義家。 |
| 一七六八 | 七四 | 鳥羽 | 天仁二、天永三、永久五 元永二、保安四、 | 大江匡房。 |
| 一七八四 | 七五 | 崇徳 | 長承三、保延六、永治一 天治二、大治五、天承一 | 金葉集。 |
| 一八〇二 | 七六 | 近衛 | 康治二、天養一、久安六 仁平三、久壽二、 | 詞花集。大鏡。榮華物語。 |
| 一八一六 | 七七 | 後白河 | 保元 三 | 保元の亂。 |
| 一八一九 | 七八 | 二條 | 平治一、永曆一、應保二 長寛二、永萬一、 | 平治の亂。 |
| 一八二六 | 七九 | 六條 | 仁安 三 | 平清盛太政大臣となる。 |
| 一八二九 | 八〇 | 高倉 | 嘉應二、承安四、安元二 治承四、 | 源頼朝起る。藤原清輔。 |
| 一八四一 | 八一 | 安徳 | 養和一、壽永二 | 源頼政。平忠度。千載集。平氏西海に亡ぶ。 |
| 一八四四 | 八二 | 後鳥羽 | 元暦一、文治二、建久九 | |

鎌倉時代

| | | | | |
|------|----|-----|----------------------------|--|
| 一八五九 | 八三 | 土御門 | 正治二、建仁二、元久二 建永一、承元四 | 源頼朝征夷大將軍となる。大江廣元。西行法師、山家集 藤原俊成、新古今和歌集。 |
| 一八七一 | 八四 | 順徳 | 建曆二、建保六、承久二 | 僧榮西、鴨長明方丈記、源實朝金槐集、公曉實朝を殺す 北條氏執權。 |
| 一八八一 | 八五 | 仲恭 | 承久 一 | 平家物語、保元物語、平治物語、承久の亂 |
| 一八八二 | 八六 | 後堀河 | 貞應二、元仁一、嘉祿二 安貞二、寛喜三、貞永一 | 泰時執權、貞永式目成る。 |
| 一八九三 | 八七 | 四條 | 天福一、文暦一、嘉祿三 曆仁一、延應一、仁治三 | 藤原隆家、新勅撰集。 |
| 一九〇三 | 八八 | 後嵯峨 | 寛元 四 | 藤原定家、時頼執權、東關紀行。 |
| 一九〇七 | 八九 | 後深草 | 寶治二、建長七、康元一 正嘉二、正元一、 | 續後撰集、十訓抄、古今著聞集、源平盛衰記、時宗執權 日蓮上人。 |
| 一九二〇 | 九〇 | 龜山 | 文應一、弘長三、文永一一 | 續古今集。 |
| 一九三五 | 九一 | 後宇多 | 建治三、弘安一〇 | 阿佛尼十六夜日記、藤原爲家、續拾遺集、元大學して入 寇す。 |
| 一九四八 | 九二 | 伏見 | 正應五、永仁六 | 二條爲氏、貞時執權。 |
| 一九五九 | 九三 | 後伏見 | 正安 三 | 辨内侍。 |
| 一九六二 | 九四 | 後二條 | 乾元一、嘉元三、徳治二 | 藤原俊成女、新後撰集。 |
| 一九六八 | 九五 | 花園 | 延慶三、慶長一、正和五 文保二、 | |
| 一九七九 | 九六 | 後醍醐 | 元暦二、元享三、正中二 建武三、元徳二、元弘三 | 高時執權、護良親王、楠正成、記録所を置く。玉葉集、 金澤文庫建つ。冷泉爲相、續千載集、續後拾遺集、北條 氏亡ぶ、南北朝。 |
| 一九九九 | 九七 | 後村上 | 興國二、正平二四 | 足利尊氏將軍となる。卜部兼好、徒然草。北畠親房、神 皇正統記、新千載集。 |

室町時代

| | | | | |
|-------------|-----|------|-----------------------------------|------------------------------------|
| 二〇三〇 | 九八 | 後龜山 | 建德二、文中三、天授六、弘和三、元中九、 | 新拾遺集。義滿將軍。増鏡。太平記。新葉集。新後拾遺集。 |
| 二〇五三 | 九九 | 後小松 | 明德二、 | 南北朝合一。義滿太政大臣となる。金閣寺。細川頼之。 |
| 二〇七三 | 一〇〇 | 稱光 | 應永一、重、正長一 | 義教將軍となる。義經記。曾我物語。 |
| 二〇八九 | 一〇一 | 後花園 | 永享一二、嘉吉三、文安五、寶徳三、享徳三、康正二、長祿三、寛正六。 | 新續古今集。 |
| 二一二五 | 一〇二 | 後土御門 | 文正一、應仁三、文明一八、長享二、延徳三、明應九 | 應仁の亂。僧雪舟。一條兼良。太田道灌。 |
| 二二六一 | 一〇三 | 後柏原 | 文龜三、永正一七、大永二 | 義晴將軍となる。宗祇法師。 |
| 二二八七 | 一〇四 | 後奈良 | 大永七、享祿四、天文二三、弘治三、 | ホルトガル入砲術を傳ふ。荒木田守武。 |
| 二二一八 | 一〇五 | 正親町 | 永祿一二、元龜三、天正一四、 | 信長入京。織田亡ぶ。豊臣秀吉關白となる。山崎宗鑑。 |
| 二二四七 | 一〇六 | 後陽成 | 天正五、文祿四、慶長一六 | 文祿の役。秀吉薨す。關ヶ原の戰。徳川家康將軍となる。秀忠將軍となる。 |
| 徳川時代 | | | | |
| 二二七二 | 一〇七 | 後水尾 | 慶長三、元和九、寛永六 | 豊臣氏亡ぶ。家光將軍となる。細川義孝。藤原惺高。 |
| 二二九〇 | 一〇八 | 明正 | 寛永 | 寛永通寶成る。道春弘文書院を立つ。 |
| 二三〇四 | 一〇九 | 後光明 | 正保四、慶安四、承應三 | 中江藤樹。家綱將軍となる。 |
| 二三一五 | 一一〇 | 後西院 | 明暦三、萬治三、寛文一 | 松永貞徳。林羅山。本朝通鑑。 |

明治大正時代

| | | | | |
|---------------|-----|-----|----------------------------|--|
| 二五二八 | 一一一 | 靈元 | 寛文一〇、延寶八、天和三、真享三、 | 新考館開かる。石川丈山。安原貞室。綱吉將軍となる。山崎闇齋。 |
| 二四三七 | 一一二 | 東山 | 真享一、元祿一六、寶永六 | 家宣將軍となる。山鹿素行。中朝事實。赤穂義士の復讐。下河邊長流。熊澤蕃山。松尾芭蕉。原田捨女。木下順庵。徳川光圀。僧契沖。伊藤仁齋。北村季吟。榎本其角。服部嵐雪。貝原益軒。家繼將軍となる。 |
| 二三七〇 | 一一三 | 中御門 | 寶永一、正徳五、享保一九 | 吉宗將軍となる。近松門左衛門。秋色女。新井白石。園女。萩生徂徠。室鳩巢。荷田春滿。 |
| 二三九六 | 一一四 | 櫻町 | 享保一、天文五、寛保三、延享三、 | 家重將軍となる。伊藤東涯。井上通女。 |
| 二四〇八 | 一一五 | 桃園 | 延享一、寛延三、寶曆一一 | 加茂眞淵國學を唱ふ。竹田出雲。柳澤淇園。家治將軍となる。 |
| 二四二三 | 一一六 | 後櫻町 | 寶曆二、 | 青木昆陽。加賀千代。谷川士清。 |
| 二四三一 | 一一七 | 後桃園 | 明和一、安永八 | 杉田玄白。富士谷成章。榎取魚彦。谷口蕪村。湯淺常山。近松半二。家齊將軍となる。 |
| 二四四〇 | 一一八 | 光格 | 安永一、天明八、寛政一四、享和三、文化一三 | ロシヤ。エゾ地を掠む。小澤蘆庵。本居宣長。橋南蹊。前野良澤。加藤千蔭。上田秋成。村田春海。蒲生君平。 |
| 二四七七 | 一一九 | 仁孝 | 文化一、文政一二、天保一四、弘化三、 | 伊能忠敬。堀保己一。式亭三馬。本居春庭。松平樂翁。頼山陽。渡邊華山。香川景樹。平田篤胤。家慶將軍となる。 |
| 二五〇七 | 一二〇 | 孝明 | 弘化、嘉永六、安政六、萬延二、文久三、元治一、慶應三 | 家定將軍となる。家茂將軍となる。慶喜將軍となる。伴信友。曲亭馬琴。藤田東湖。吉田松陰。佐久間象山。 |
| 明治大正時代 | | | | |
| 二五二八 | 一二一 | 明治 | 慶應一、明治四五 | 王政復古百様の文物皆興る。日清戦争。日露戦争。朝鮮合併。 |
| 二五七三 | 一二二 | 今上 | 大正四 無窮 | |

朝鮮王公族

| | | |
|--|----------------------------------|--|
| 昌德宮李王 同李王妃 同王世子 德壽宮李太王 李瑠公 | 御名 李瑠 李熙 李熙 李熙 李熙 | 御誕辰年月日 明治七年三月二十五日 明治二十七年九月十九日 明治三十年十月二十日 嘉永五年九月八日 明治十年三月三十日 |
| 李李 同李 李李 李李 李李 | 稱 公 公 公 公 公 | 御名 李金 李金 李金 李金 李金 |
| | | 御誕辰年月日 明治十三年十二月廿二日 明治三年八月十九日 明治十三年七月十八日 明治十六年七月十日 |

皇室に關する敬語表

| | | | | | | | | | | | | | | |
|----|------------|---------|----|----|------|-----|----|-----|----|-------|-----|------|----|----|
| 稱號 | 若くは代名詞とし用ふ | 稱號の下に附し | 天皇 | 陛下 | 天皇 | 三后 | 陛下 | 皇太子 | 殿下 | 皇太子妃子 | 殿下 | 一般皇族 | 殿下 | |
| 御上 | 今上 | 主上 | 皇帝 | 天子 | 太皇太后 | 皇太后 | 皇后 | 皇太子 | 東宮 | 東宮妃 | 何親王 | 何王 | 某宮 | 竹園 |
| 上御 | 御上 | 聖上 | 尊上 | 太子 | 太皇太后 | 皇太后 | 皇后 | 皇太子 | 東宮 | 東宮妃 | 何親王 | 何王 | 某宮 | 竹園 |
| 御上 | 御上 | 御上 | 御上 | 御上 | 御上 | 御上 | 御上 | 御上 | 御上 | 御上 | 御上 | 御上 | 御上 | 御上 |

| | | | | |
|------|------|-----------------|-------------|------------|
| 御居所 | 假御居所 | 御居所を出でて他に行き給ふこと | 他所にとごまり給ふこと | 他より還らせ給ふこと |
| 宮城 | 宮中 | 禁中 | 禁廷 | 九重 |
| 禁裏 | 禁闕 | 御所 | 皇居 | 大元帥 |
| 上御 | 現津御 | 神 | 行宮 | 行在 |
| 行幸 | 臨幸 | 臨幸 | 行幸 | 還幸 |
| 行啓 | 行啓 | 行啓 | 行啓 | 還啓 |
| 東宮御所 | 何御殿 | 御成 | 還啓 | 還啓 |
| 帝葉 | 金枝玉葉 | | | |

| | | | | |
|---------------------|-----------------------|-----------|-----------|----------|
| 御詩歌 | 御製 | 御歌 御詩 | 御歌 御詩 | 御歌 御詩 |
| 御誕生・御歳 御一代等に關する語 | 降誕 寶算 御宇 大御代 | 降誕 御誕生 | 降誕 御誕生 | 御誕生 |
| 臣民より進むる書類 | 上表 上奏 | 上啓 | 上啓 | |

(注意)

- 一 表中、空意なる所は大抵普通の敬語の重きものを用ひる。
- 一 この外にも、天皇の御衣を「こんりゅう袞龍の御衣」賜はる御杯を「天杯」皇女の臣下に嫁し給ふを「降嫁」と稱する類がある
- 一 上表・上啓の文中、自稱は稍々細字にて「臣某」と書く。(某とは我名)

◎ 假名

假名は(カリナの意)にて、我國純粹固有の聲音を書きあらはせるものなり。假名には片假名、及び平假名の二種あり。片假名はもと漢字の音を同じうするものより、其の偏、旁、冠、等を取り來りて、時の人の使ひ來れるより起り、音韻學者吉備真備の、之れを今の五十音圖に排列せるものなりとか。平假名は、漢字を草書の、尤も簡略なるものに書きなしたるものにして、俗に僧空海の作なりと傳ふ。

一、清音

| | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ア | カ | サ | タ | ナ | ハ | マ | ヤ |
| ア | カ | サ | タ | ナ | ハ | マ | ヤ |
| イ | キ | シ | チ | ニ | ヒ | ミ | イ |
| ウ | ク | ス | ツ | ヌ | フ | ム | ユ |
| エ | ケ | セ | テ | ネ | ヘ | メ | エ |
| オ | コ | ソ | ト | ノ | ホ | モ | ヨ |

ア列 (阿) 片假名
イ列 (伊) 片假名
ウ列 (宇) 片假名
エ列 (江) 片假名
オ列 (於) 片假名

ア列 (阿) 平假名
イ列 (伊) 平假名
ウ列 (宇) 平假名
エ列 (江) 平假名
オ列 (於) 平假名

ク[○] ミ[○] ビ[○] ニ[○] チ[○] シ[○] キ[○]
ッ ヲ ヲ ヲ ヲ ヲ ヲ

ミ ヲ ニ ヲ チ ヲ シ ヲ キ ヲ

ミ ヲ ニ ヲ チ ヲ シ ヲ キ ヲ

く み び に ち し き
わ ゃ や ゃ ゃ ゃ

み び に ち し き
ゅ ゃ ゃ ゃ ゃ

み び に ち し き
よ ゃ ゃ ゃ ゃ

グ[○] リ[○] ビ[○] ヒ[○] チ[○] ジ[○] ギ[○]
ッ ヲ ヲ ヲ ヲ ヲ ヲ

リ ヲ ビ ヲ ヒ ヲ チ ヲ ジ ヲ ギ ヲ

リ ヲ ビ ヲ ヒ ヲ チ ヲ ジ ヲ ギ ヲ

ぐ り び ひ ち じ ぎ
わ ゃ ゃ ゃ ゃ ゃ

り び ひ ち じ ぎ
ゅ ゃ ゃ ゃ ゃ

り び ひ ち じ ぎ
よ ゃ ゃ ゃ ゃ

四、拗音

三、半濁音

音

ば

び

ぶ

べ

ぼ

ダガ
ヂギ
ヅグ
デゲ
ドゴ

だ が
ぢ ぎ
づ ぐ
で げ
ど ご

バザ
ビジ
ブズ
ベゼ
ボゾ

ば ざ
び じ
ぶ ず
べ ぜ
ぼ ぞ

二、濁

音

ゐ る ゆ む
る ら
ゑ ゑ
ゐ ゐ
ゑ へ
ゐ ゐ
ゑ へ

ゑ れ よ め
ゑ ゑ ゑ ゑ
ゑ ゑ ゑ ゑ

を ろ ら も
わ ゃ ゃ ゃ
わ ゃ ゃ ゃ

わ り や
わ ゃ ゃ
わ ゃ ゃ

へ の な ち す け お あ
ゑ る 乃 亦 ち せ 務 た あ
信 此 取 込 込 々 毎

ほ は に つ せ こ か い
わ え ゑ ゑ 川 を 大 り ゐ
得 ゑ ゑ 乃 乃 乃 乃 乃

ま ひ ぬ て そ さ き う
ほ 比 ぬ て そ さ き う
万 分 々 々 々 々 々

み ふ ね と た し く え
み ぬ 林 々 々 々 々
ま 宿 乃 乃 乃 乃 乃

ゑ あ や ら よ ち い
(惠) (安) (也) (良) (興) (知) (伊)

ひ さ ま む た り ろ
(比) (左) (末) (武) (太) (利) (呂)

せ ゆ ふ ゐ そ る に
(世) (由) (不) (爲) (曾) (留) (仁)

ん み ね お ね わ へ
(无) (美) (江) (於) (禰) (和) (反)

し て く な か ど
(之) (天) (久) (奈) (加) (止)

ラ 行

ラ (良)

リ (利)

ル (流)

レ (禮)

ロ (呂)

3 平假名の變體

2 平假名

假名

五、撥音

ン ん ランゾ らんぶ (洋燈)……………等
撥音は、一に鼻音といひ、氣息を鼻に通じて生ずる音なり。

六、促音

ッ っ ラッパ らっぱ (喇叭)……………等
促音は、又單に促聲ともいへり。口腔の中に、氣息の促る時に發する音なり。之れは普通の、假名の右側下に小さく「ッ」「っ」と記するを例とす。

七、長呼音符

ボール ぼーる (球) ビール びーる (麥酒)
ペーパー ペーぱー (紙) ベースボール ベーすばーる (野球)等
長呼音符は、又引音ともいふ。片假名平假名に共通に用ふ。我國にて用ひ始めたるは、元祿時代(二百一十年前)の頃よりなり。

八、踊字

チ、 ちゅ (乳) シ、 しゅ (獅子)
ユクく ゆくく (行々) カへすく かへすく (返す返す)
踊字は、又送字ともいひて、同一假名を重ねて用ふる時に、下なる假名に、略用する符號なり。「く」「ゅ」「く」等。

九、合略假名

片假名 一 (コト) キ (トキ) 𑖀 (トモ) 𑖁 (シメ)
平假名 こ (こと) え (なり) か (より)
書寫の便宜上、二字を合字して、一字とせるものなり、尙げ(トテ)𑖀(ト云フ)の合略字もあれど、今はすたれて用ひられず。尙右に類して、書簡體略字あり。

○書簡體略字
候の略字 𑖀 候の略字 𑖁 奉の草體 奉の略字
被の略字 𑖂 さまの合略字
右中の、𑖀、𑖁、𑖂はさふらふと讀み。𑖀、𑖁はまぬらせと讀み。𑖂ははられと讀む。
而してこは、一般に用ふれども、𑖀、𑖁は、婦人の書簡文、又は男子より婦人に送る、書簡にのみ用ふる文字なり。

◎連聲法

聲音が、互に相連續して言語に表はれたる時、其の呼聲及び假名の變化する様を、説明する法なり。

一、音調

同音の語にても、其の音の調子によりて、全く殊別の意義を有する事、なほ異音の語と異なる事なきものなるを以て、之れを呼ぶ時、自ら其の區別をなさざるべからず。音調に三つの區別あり。聲の調子の高きもの、之れを上聲といひ。聲の調子の低きもの、之れを去聲といひ。聲の調子の高きも低きもあらず、即ち平常なるもの、之れを平聲といふなり。左に其の數例を示さん。

上聲 ひ (日) 平聲 ひ (種) 去聲 ひ (火)

す (巢) ○ か (蚊) う (鶉) に (荷) は (羽) ね (音) な (菜) はし (嘴) つる (鶴) あめ (天) かもかは (鴨河)

す (籬) と (戸) か (香) う (卵) に (丹) は (葉) ね (直) な (名) はし (箸) つる (弦) あめ (雨) かも (鴨)

す (洲) と (砥) ○ ○ ○ ○ は (齒) ね (根) ○ はし (橋) つる (釣) あめ (飴) かも (鴨) かも (鴨) やしろ (鴨社)

二、轉呼音

或音の、言葉の上に表るゝ時、連聲の便利上より、原音のまゝ他音に轉呼するをいふ。此際、原音の假名を改むべからず。今左に例を示す。

かは (河) かはる (代) すなはち (即) たひ (鯛)

かはづ (蛙) あは (粟) くはふる (加) かひな (腕)

さは (澤) さいはひ (幸) たくはふる (貯) こひ (鯉)

おもひ (思) さいはひ (幸) くふ (食) ひろふ (拾) いへ (家) をしへ (教) かほ (顔) ほのほ (焰) をしふ (教) たふる (堪) そふる (添) あふぐ (煽) あふぐ (仰) あふ (逢) あうむ (鸚鵡) かふ (買) かう (江) さう (支) たふ (堪)

いひ (飯) ゆふべ (夕) かへる (歸) かなへ (鼎) おほし (多) いきほひ (勢) わきまふる (辨) しふる (強) あふひ (葵) あふ (鴨) あふみ (近江) かふ (甲) さふ (插) たふ (塔)

あたひ (價) すふ (吸) はへ (蠅) しほ (鹽) かふる (換) ひかふる (控) たふる (倒) あう (快) かうべ (頭) さう (想) たうげ (峠)

たう(唐)
になふ(擔)
なう(腦)
はふ(這)
はう(放)
まふ(舞)
やうか(八日)
あらふ(洗)
らう(郎)
わう(王)
わふ(葉)
けふ(今日)
てうづ(手水)
てう(朝)
へう(標)
めうど(夫婦)
れう(獵)
ゑふ(醉)
いふ(言)

なふ(納)
そなふ(備)
はふ(法)
まうく(設)
やう(陽)
らふ(臘)

なうし(直衣)
はうき(葦木)
まう(孟)
くらうど(藏人)
けう(橋)
てふ(蝶)
めうが(茗荷)
いふ(有)

いうて(言)
きふ(急)
しふ(強)
しう(州)
ちふ(忠)
にふ(入)
びう(謬)
りふ(立)
ほつ(發意)
せんあく(善惡)
いんねん(因縁)
まんねふ(萬葉)
にんわ(仁和)
てんわう(天皇)
さむあく(三惡)
ほんあみ(本阿彌)
おむやうし(陰陽師)
おんあい(恩愛)
せつ(雪隠)

きう(宮)
しふ(習)
にう(柔)
りう(流)
ぶつおん(佛恩)
わんいん(延引)
くわんおむ(觀音)
かんねふ(肝要)
りんね(輪回)
しんわう(親王)
さむ(三位)
しんあい(親愛)
げんわ(元和)
もんねん(門院)

うれしう(嬉)
せつおむ(舌音)
うんうん(云々)
さんよう(算用)
あんぜん(安穩)
そんわう(尊王)
なむあみだぶつ(南無阿彌陀佛)
ぎんあん(銀杏)
りんう(霖雨)
しんねん(新院)

しふて(拾手)
 にふたう(入唐)
 はふど(法度)
 しゆつばむ(出帆)
 がくかう(學校)
 ろくべん(六遍)
 にちくわう(日光)
 せきくわ(石火)
 ひきさぐ(提)
 しあはせ(仕合)
 みあひ(見合)
 であひ(出合)

かふかう(恰好)
 なふしよ(納所)
 じふほう(十方)
 いくか(幾日)
 かくけ(脚氣)
 ざくほ(獨歩)
 きちさう(吉左右)
 せきこむ(急込)
 せきけう(石橋)
 しあひ(仕合)
 いらあひ(入相)
 たくあん(澤庵)

かふちう(甲冑)
 たふとし(貴)
 はくか(薄荷)
 ほくぼう(北方)
 にちほん(日本)
 うちて(討手)
 ひきばる(引張)
 ばあひ(場合)
 むあひ(居合)
 ぐあひ(工合)

三約音

約音とは、連聲の便より、二音の一音に約りたるものなり。かくて其約るにも、一定の方法ありて、亂る事なし。之れを又反切といふ。其の反切する所の二音、上なるを父位といひ、下なるを母位といひ、反切する音を、歸音といふ。例へば

さしあひ(拵) さしあひ(差上)
 たしあひ(戰合) あのかた(彼方)
 もちて(以) おほち(祖父)

さしあひ(拵) さしあひ(差上)
 たしあひ(戰合) あのかた(彼方)
 もちて(以) おほち(祖父)

○反切の四則

- 1 父母兩位、五十音中の同行中にある時は、母位に歸す。
 父位 母位
 もちて タチツテト……もて
- 2 父母兩位、五十音中の同列中にある時は、父位に歸す。
 父位 母位
 おほち
- 3 父母兩位、行列共に異なる時は、父位と同行にして、母位と同列の音に歸す。
 父位 母位
 カキケコ たしかひ
- 4 父母共に、同音なる時は、歸音は又其音なり。
 母位 父位
 アイウエオ たしかひ

行きてあり
 行かすあり
 惜しげく
 そとおも(外面)
 たかすなご(高砂)
 にしきぞり(錦織)

ゆきたり
 行かざり
 惜しく
 そども
 たかさご
 にしごり

善くあり
 稀にあり
 かたりあひ(語合)
 あさをみ(朝臣)
 わかおも(吾妹)

善かり
 稀なり
 かたらひ
 あそみ
 わざも

此の法則を、前例に應用して試みよ。

四、延音

延音とは、一音を二音に延ばしたる音なり。こは約音の延びたるにあらずして、言葉の上に特別の必要ありて、殊更に延ばしたるものなり。

| | | | | |
|--------|---|---------|---|------|
| きく(聞) | ヲ | まをす(申) | ヲ | まをさく |
| まつ(待) | ヲ | しらぬ(不知) | ヲ | しらなく |
| いふ(言) | ヲ | おもふ(思) | ヲ | おもはく |
| ねがふ(願) | ヲ | みむ(見) | ヲ | みまく |
| はく(佩) | ヲ | はき(佩) | ヲ | はかし |
| きく(聞) | ヲ | きく(聞) | ヲ | きかし |
| たる(垂) | ヲ | たり(垂) | ヲ | たらし |
| とる(取) | ヲ | とり(取) | ヲ | とらし |
| ゑみ(笑) | ヲ | すみ(住) | ヲ | すまひ |
| のれ(宣) | ヲ | | | |

約音は、約らぬが本語なるを、連聲上の便より約りたるなり。延音は、延びざるが本語なるを、歌の調子、又は崇敬、及び調をゆるやかにす必要上より、延ばしたるものなり。

五、略音

略音とは、連聲の便より、音の略かるをいふ。其の約音と異なるは、約音は連聲の便より、二音の相合して一音に歸するものなり。略音は連聲の便より、全く音の消滅するものなり。

| | | | |
|-------------|-------|-----------|------|
| ますあらを(益荒男) | ますらを | たあらひ(盃) | たらひ |
| かはあひ(河合) | かはひ | やまあがた(山縣) | やまがた |
| けあさ(今朝) | けさ | ながあめ(長雨) | ながめ |
| あかいし(明石) | あかし | かりいほ(假庵) | かりほ |
| おもいし(重石) | おもし | おほうち(大内) | おほち |
| なるうみ(鳴海) | なるみ | かはうち(河内) | かはち |
| よもぎおふ(蓬生) | よもきふ | みちのおく(陸奥) | みちのく |
| かさおきやま(笠置山) | かさぎやま | ふどおり(太織) | ふどり |
| つばきいち(椿市) | つばいち | ときたね(時絶) | とだね |
| やなぎかは(柳河) | やながは | のきはし(軒端) | のきは |
| あしだち(足立) | あだち | あしがき(足掻) | あがき |
| あしぶみ(足踏) | あぶみ | はちす(蓮) | はす |
| あしと(足所) | あご | ゆきどけ(雪解) | ゆきげ |
| くちどく(口説) | くどく | くにす(國栖) | くす |
| みづく(水漬) | みづく | | |
| かには(構) | かば | | |

たびゞど(旅人)

たびど

はやひと(隼人)

はやど

すみすり(硯)

すゞり

ゆみづる(弦)

ゆづる

かみざし(髪挿)

かざし

うみのほら(海原)

うなはら

かりの(狩野)

かの

くすりたま(薬玉)

くすたま

かへるさ(歸)

かへさ

さゝれなみ(漣小波)

さゝなみ

こゝろち(心地)

こゝち

まがりたま(曲玉)

まがたま

くすりし(薬師)

くすし

かへるで(楓)

かへで

たはれわざ(戯業)

たはわざ

とみやま(富山)

とやま

しらがみ(白髪)

しらが

あみしろ(網代)

あじろ

六、通音

通音とは、ある音の言葉の上に表はれたる時、其の同行音、又は同韻列の音に通じてよぶをいふ。其の行に通じたるを音通といひ、同韻列に通じたるを、韻通といふ。

1 音通

いを(魚) ヲ
おき(息) ヲ
ひきく(低) ヲ

うばら(荆) ヲ
あか(紅) ヲ
いづく(何處) ヲ

たしき(櫛)

たすき

た(楯)

たて

ひね(冷)

ひや

ねぬ(犬)

いぬ

つれ(列)

つら

まるし(圓)

まろし

をさぎ(兎)

うさぎ

はづか(僅)

わづか

あれ(吾)

われ

はたすしき(薄)

はなすしき

とば(苦)

とま

あれ(彼)

かれ

あめつち(天地)

あめつち

けし(消)

けち

うし(大人)

ぬし

おほね(大兄)

おほね

をみなへし(女郎花)

をみなめし

をどこ(男)

をのこ

とし(年)

とせ

あなゆむ(足惱)

あなやむ

よわ(弱)

やわ

いめ(夢)

ゆめ

ありき(歩)

あるき

あやまふ(敬)

あやまふ

はしる(走)

わしる

さやく(騒)

さわぐ

かば(蒲)

かま

ねばる(黏)

ねまる

あなた(彼方)

あなた

なみは(浪波)

なには

けす(消)

けつ

わすらゆ(忘)

わすらる

ゆきかね(行兼)

ゆきかて

こきばく(若干)

こきばく

しばらく(暫)

しまらく

2

韻通

三二

三〇

にひばり(新墾) ヲ にひまり
 せばき(狭) ヲ せまき
 さびし(淋、寂) ヲ さみし
 あび(浴) ヲ あみ
 こたび(此度) ヲ こたみ
 どぶらひ(吊) ヲ どむらひ
 さぶらふ(候) ヲ さむらふ
 つぶり(頭) ヲ つむり
 かたぶく(傾) ヲ かたむく
 すべらき(皇) ヲ すめらき
 とぼす(點火) ヲ ともす

此の通音は、新古の區別こそあれ、いづれを正とも、いづれを訛りとも、定め難きものにして、古くより二つながら、雅言として用ゐられるなり。

七、轉音

轉音とは、二音を合して一言となす時、ある音の、他の音に轉ずるをいふ。
 此の音の、混用しやすきは通音なり。されど其の間、明かに區別あるものにして、通音は同意同語にして、二つの呼び聲と、二つの假名遣ひとあり、轉音は全く他の音に、轉じたるものといふなり。

さけたる(酒樽) ヲ さかたる
 きのは(木の葉) ヲ このは

みくばり(水分) ヲ みくまり
 へび(蛇) ヲ へみ
 たのしび(樂) ヲ たのしみ
 いなび(辭) ヲ いなみ
 けぶり(煙) ヲ けむり
 ねぶり(睡) ヲ ねむり
 あはれぶ(憐) ヲ あはれむ
 かふり(冠) ヲ かむり
 にひなべ(新嘗) ヲ にひなめ
 うかべ(浮) ヲ うかめ
 まほる(守) ヲ まもる

たけむら(篋) ヲ たかむら
 きかね(黄金) ヲ かがね

かせおと(風音) ヲ かせおと
 てあらひ(鹽) ヲ たあらひ
 てのこころ(掌) ヲ たなごころ
 みづのど(湊) ヲ みなご
 ふねやど(舟宿) ヲ ふなやど
 あめがさ(雨傘) ヲ あまがさ
 まなか(真中) ヲ もなか
 しろたま(白玉) ヲ しらたま
 はるあめ(春雨) ヲ はるさめ
 ひひ(日々) ヲ ひび
 ともしひ(燈) ヲ ともしび

ゆふつきよ(夕月夜) ヲ ゆふつくよ
 かねくら(金庫) ヲ かなぐら
 みづのもと(源) ヲ みなもと
 むねもと(胸) ヲ むなもと
 ひのほ(焰) ヲ ほのほ
 つめはぢき(爪弾) ヲ つまはぢき
 あれなみ(荒波) ヲ あらなみ
 こゑいろ(聲色) ヲ こわいろ
 はしはし(橋々) ヲ はしばし
 つきつき(月々) ヲ つきつき

八、音便

音便とは、二音を連呼する時、口の機關の便に隨ひて、原音を變じて、他の音に全く換ふるものなり。音便によぶ言語は、も
 と我國純粹の言語にあらず、その時代々々の訛言、または漢字音の呼び聲の、言語に移れるものなどの、慣用の久しき遂に、
 今は雅言とひとしく、用ゐらるゝに至れるなり。

1 う 音便

を、は、や、く、か、へ、り、ひ、わ、ふ、み、ほ、ま、むを「う」に呼ぶもの

まをす(申) ヲ まうす
 かはほり(蝙蝠) ヲ かうもり

2

い音便

か。は。ほ。ね。(河骨)
 や。く。し。(漸く)
 さ。む。く。(寒)
 ま。へ。つ。き。み。(卿)
 ど。り。い。で。(取出)
 い。ひ。て。(言)
 た。か。ひ。て。(戦)
 こ。ま。ひ。と。(高麗人)
 さ。ふ。ら。ふ。(候)
 か。み。か。き。(髪搔)
 な。ほ。し。(直衣)
 た。ま。は。り。(賜)
 か。む。し。(柑)

か。う。ほ。ね
 や。う。や。う
 か。う。し
 さ。む。う
 ま。う。つ。き。み
 ど。う。で
 い。う。て
 か。か。う。て
 こ。ま。う。と
 さ。う。ら。ふ
 か。う。か。い
 な。う。し
 た。う。ば。り
 か。う。し

き、し、を「い」に呼ぶもの

は。は。き。(箒)
 ひ。や。く。し。(柏子)
 な。が。く。(長)
 か。ふ。り。(冠)
 つ。か。ん。ま。つ。る。(仕奉)
 く。ら。ひ。て。(食)
 か。ひ。て。(買)
 ま。ひ。と。(真人)
 ま。わ。で。(参出)
 は。ふ。し。(法師)
 か。み。べ。(神戸)
 な。ほ。ら。ひ。(直會)
 や。ま。だ。(山田)
 ひ。む。か。(日向)

は。う。き
 ひ。や。う。し
 な。が。う
 か。う。ぶ。り
 つ。か。う。ま。つ。る
 く。ら。う。て
 か。う。て
 ま。う。と
 ま。う。で
 は。う。し
 か。う。べ
 な。う。ら。ひ
 や。う。だ
 ひ。う。が

3

促音便

か。き。て。(書)
 す。き。が。き。(透垣)
 ひ。ら。き。て。(開)
 あ。ふ。ぎ。て。(仰)
 を。し。き。か。な。(惜哉)
 も。て。な。し。て。(饗)
 あ。した。(朝)

か。い。て
 す。い。か。い
 ひ。ら。い。て
 あ。ふ。い。て
 を。し。い。か。な
 も。て。な。い。て
 あ。い。た

ひ、ち、り、ふ、つ、を促音「つ」に呼ぶもの

き。さ。き。(后)
 さ。き。な。む。(呵責)
 つ。き。て。(就)
 か。ぎ。て。(嗅)
 ひ。さ。し。き。か。な。(久哉)
 さ。し。て。(指)
 ふ。か。し。(深)

き。さ。い
 さ。い。な。む
 つ。い。て
 か。い。て
 ひ。さ。し。い。か。な
 さ。い。て
 ふ。か。い

又

い。ひ。て。(言)
 た。か。ひ。て。(戦)
 う。ち。て。(撃)
 ま。ち。て。(待)
 さ。り。て。(去)
 あ。た。り。て。(當)
 た。ふ。ど。し。(貴)
 や。つ。こ。(奴)
 の。り。ど。る。(則)
 ま。た。く。(全)

い。っ。て
 か。か。つ。て
 う。つ。て
 ま。つ。て
 さ。つ。て
 あ。た。つ。て
 た。つ。し
 や。つ。こ
 の。つ。ど。る
 ま。つ。た。く

4 撥音便

もばら(專) ヲ もつばら
あはれ(怜) ヲ あっぱれ

もども(最) ヲ もつども
うたへ(訴) ヲ うつたへ

み、ひ、へ、ほ、り、に、を撥音「ん」に呼ぶもの。

をみ[。]な(女) ヲ をん[。]な
かみ[。]の[。]と[。]の(頭殿) ヲ かん[。]の[。]と[。]の
つか[。]へ[。]まつ[。]る(仕奉) ヲ つか[。]ん[。]まつ[。]る
なり[。]な[。]む(垂) ヲ なん[。]な[。]む
とみ[。]て(富) ヲ とん[。]で
およ[。]び[。]て(及) ヲ およ[。]ん[。]で

かみ[。]な[。]き(巫) ヲ かん[。]な[。]き
あき[。]ひ[。]と(商人) ヲ あき[。]ん[。]ど
ほど[。]ほ[。]と(殆) ヲ ほん[。]ど
やみ[。]て(止) ヲ やん[。]で
よび[。]て(呼) ヲ よん[。]で
しに[。]て(死) ヲ しん[。]で

5 上の音急に促る時、又は撥ぬる時は、下の音は半濁音となる音便。

もば[。]ら(專) ヲ もつば[。]ら
はふ[。]ひ(法被) ヲ はつび
にち[。]ほん(日本) ヲ につぼん
はつ[。]ふん(發憤) ヲ はつぶん
ひん[。]ふ(貧富) ヲ ひんぶ
はん[。]ほ(反哺) ヲ はんぼ

あは[。]れ(怜) ヲ あつば[。]れ
かふ[。]は(合羽) ヲ かつば
いち[。]ほん(一本) ヲ いつぼん
りつ[。]ふく(立腹) ヲ りつぶん
はん[。]はく(半白) ヲ はんぱく
せん[。]ふく(潜伏) ヲ せんぷく

6 「い」、「ん」、「う」、を添へてよぶ例。

7 「ん」を省きていふもの。

しか(詩歌) ヲ しいか
まな(眞字) ヲ まんな
ふと(夫婦) ヲ ふうふ
むか(六日) ヲ むいか

し[。]ん(四時) ヲ しいし
ずば(不者) ヲ ずんば
やか(八日) ヲ やうか

8 上の音の、發聲の下の母韻と合するもの。

もん[。]じ(文字) ヲ もんじ
あんな[。]い(案内) ヲ あない
よく[。]あり(善) ヲ よかり
まれ[。]に[。]あり(稀) ヲ まれなり
みず[。]ある(不見) ヲ みざる

ほん[。]い(本意) ヲ ほんい
ねん[。]ぶつ(念佛) ヲ ねんぶつ
あし[。]く[。]あり(悪) ヲ あしかり
あき[。]ら[。]かに[。]あり(明) ヲ あきらかなり
ゆか[。]ず[。]ある(不行) ヲ ゆかざる

此種の音便は、音便中の變形なるものにして、動詞のラ行變格活用に連綴する詞の上には、常に見る處なり。

◎ 漢字

漢字は、支那の古へより用ひ來りし文字にして、假名の音を表はす文字に對して、一種の意味を表はす文字なるにより、假名の音標字といふに對して、又意標字と稱す。凡べて文字の創作、及び其の變遷發達の由來を詳にせむ事は、中々に興味ある研究なり。特に漢字に於て然りとす。されど繁をさけて今は省きつ。

一、偏旁冠脚の名稱

1 偏

| | | | | | | | | | | | |
|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 足 | 豆 | 虫 | 糸 | 示 | 田 | 片 | 木 | 止 | 弓 | 子 | イ |
| 足 | 豆 | 虫 | 糸 | 示 | 田 | 片 | 木 | 止 | 弓 | 子 | 人 |
| 偏 | 偏 | 偏 | 偏 | 偏 | 偏 | 偏 | 偏 | 偏 | 偏 | 偏 | 偏 |
| 路・跡 | 跪・踰 | 蟬・蝮 | 紅・紙 | 社・祖 | 町・略 | 版・牌 | 松・桃 | 此・武 | 弘・張 | 孔・孫 | 伊・作 |
| 車 | 角 | 衣 | 月 | 矢 | 王 | 牙 | シ | 方 | イ | 山 | ？ |
| 車 | 角 | 衣 | 肉 | 矢 | 玉 | 牙 | 三水 | 方 | 行人 | 山 | 二 |
| 偏 | 偏 | 偏 | 偏 | 偏 | 偏 | 偏 | 偏 | 偏 | 偏 | 偏 | 水 |
| 軸・轉 | 解・觸 | 袖・襟 | 肋・股 | 知・短 | 球・球 | 疥・癩 | 浴・湯 | 施・族 | 彼・往 | 岬・岐 | 涼・冷 |
| 身 | 豕 | 缶 | 舟 | 禾 | 目 | 牛 | 火 | 日 | 巾 | 巾 | 口 |
| 身 | 豕 | 缶 | 舟 | 禾 | 目 | 牛 | 火 | 日 | 巾 | 巾 | 口 |
| 偏 | 偏 | 偏 | 偏 | 偏 | 偏 | 偏 | 偏 | 偏 | 偏 | 偏 | 偏 |
| 躬・躄 | 貉・豹 | 缺・燬 | 舶・艦 | 秋・秒 | 眼・眇 | 牝・牧 | 灯・燒 | 明・晴 | 忙・快 | 帆・帳 | 吹・吐 |
| 酉 | 貝 | 言 | 耳 | 米 | 石 | 彡 | 月 | 月 | 才 | 步 | 女 |
| 酉 | 貝 | 言 | 耳 | 米 | 石 | 彡 | 月 | 月 | 才 | 土 | 女 |
| 偏 | 偏 | 偏 | 偏 | 偏 | 偏 | 偏 | 偏 | 偏 | 偏 | 偏 | 偏 |
| 配・醉 | 貯・賜 | 論・語 | 耶・聯 | 粒・粧 | 硯・砲 | 犯・猿 | 牀・淋 | 朋・服 | 托・扶 | 地・坊 | 姉・妹 |

采
ノノ
米偏
籾・釋

食
シヨク
偏
飯・餅

鹿
シカ
偏
麋・麟

金
カネ
偏
銅・銀

馬
ウマ
偏
馳・駐

齒
ハ
偏
齡・齧

骨
ホネ
偏
體・髓

骨
ホネ
偏
阪・防

革
カ
偏
靴・鞅

魚
イサ
偏
鯛・鯉

2 旁

リ
立
刀
利・列

支
枝
又
救・敬

戈
タスキノヤ
戎・我

斤
斤
斬・新

辛
辛
辭・辨

頁
大
頃・頂

三
髮
飾
形・影

辰
辰
段・殺

鳥
鳥
鳩・鷓

文
文
紋・故

欠
欠
欲・缺

佳
古
雄・雌

3 冠 頭

一
冠
冠
冠・富

ヨ
頭
頭
象・葉

艸
草
冠
芝・苦

ハ
冠
冠
定・客

竹
竹
筥・筆

雨
雨
雪・露

一
鍋
蓋
亡・京

戸
戸
房・扇

尸
屍
尾・層

人
人
余・傘

穴
穴
空・穿

病
病
症・疲

四〇

| | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 口 | 口 | 口 | 口 | 口 | 口 | 口 | 口 | 口 | 口 |
| 門 | 門 | 門 | 門 | 門 | 門 | 門 | 門 | 門 | 門 |
| 構 | 構 | 構 | 構 | 構 | 構 | 構 | 構 | 構 | 構 |
| 舟 | 舟 | 舟 | 舟 | 舟 | 舟 | 舟 | 舟 | 舟 | 舟 |
| 再 | 再 | 再 | 再 | 再 | 再 | 再 | 再 | 再 | 再 |
| 匹 | 匹 | 匹 | 匹 | 匹 | 匹 | 匹 | 匹 | 匹 | 匹 |
| 區 | 區 | 區 | 區 | 區 | 區 | 區 | 區 | 區 | 區 |
| 勿 | 勿 | 勿 | 勿 | 勿 | 勿 | 勿 | 勿 | 勿 | 勿 |
| 凶 | 凶 | 凶 | 凶 | 凶 | 凶 | 凶 | 凶 | 凶 | 凶 |
| 函 | 函 | 函 | 函 | 函 | 函 | 函 | 函 | 函 | 函 |
| 固 | 固 | 固 | 固 | 固 | 固 | 固 | 固 | 固 | 固 |
| 園 | 園 | 園 | 園 | 園 | 園 | 園 | 園 | 園 | 園 |
| 門 | 門 | 門 | 門 | 門 | 門 | 門 | 門 | 門 | 門 |
| 閉 | 閉 | 閉 | 閉 | 閉 | 閉 | 閉 | 閉 | 閉 | 閉 |
| 開 | 開 | 開 | 開 | 開 | 開 | 開 | 開 | 開 | 開 |

二、漢字典の引方

漢字を引くには、先づ見出しとなるべき索引につきて、其の大體を記憶し居らざるべからず。索引中には、偏あり、旁あり、冠あり、脊あり、垂あり、繞あり、其他名の附け方に苦しむものあり、例へば木に關するものは、木の部に索め。金に關するものは、金の部に索め出すべし。而して、其の部を索め出したりとせば、其の見出しの畫を、除き去りたる畫數を數へて、更に其の畫に相當する所を索めなば、思ふ文字をたやすく探りうべし。例へば、

杉 木偏にて三畫 鐵 金偏にて九畫

イ……………人の部 川……………刀の部 巳……………巳の部 允……………允の部
兀……………尢の部 川……………刀の部 五……………五の部 冫……………冫の部
兀……………尢の部 川……………刀の部 五……………五の部 冫……………冫の部

| | | | |
|-----------|-----------|-----------|-----------|
| 巾……………心の部 | 才……………手の部 | 文……………文の部 | 无……………无の部 |
| 夕……………夕の部 | シ……………水の部 | 火……………火の部 | 爪……………爪の部 |
| 牛……………牛の部 | 犬……………犬の部 | 王……………玉の部 | 内……………内の部 |
| 冫……………冫の部 | 老……………老の部 | 月……………肉の部 | 艸……………艸の部 |
| 冫……………冫の部 | 冫……………冫の部 | 冫……………冫の部 | 長……………長の部 |

三、漢字の書體及び活字の名稱

漢字の書體に、數種あり、其の重なるものをあぐれば篆書、隸書、楷書、行書、草書等なり。其の中篆書と隸書とは、多く碑題又は印璽に用ひらるゝのみ。楷書は眞書ともいひ、印刷用の活字には、明朝、清朝、ゴチック等あり。

1 漢字の書體

| | | | | | |
|--------|---|---|---|---|---|
| 篆書 | 日 | 山 | 川 | 而 | 埤 |
| 隸書 | 日 | 山 | 川 | 天 | 地 |
| 楷書(清朝) | 日 | 山 | 川 | 天 | 地 |
| 行書 | 日 | 山 | 川 | 天 | 地 |
| 草書 | 日 | 山 | 川 | 天 | 地 |
| 明朝 | 日 | 山 | 川 | 天 | 地 |
| ゴチック | 日 | 山 | 川 | 天 | 地 |

2 活字の名稱

漢字を印刷に用ふるに、活字の大小によりて、初號より八號までの號あり。尤も普通に、書籍、新聞、雜誌等に用ふるは五號活字なり。七號は振假名としてのみ用ひらる。

初 壹 貳 參 四 五 六 七

(注意) 右の活字は、其の活字の號数を表はすもの、初めは初號、八は八號なり。

四、漢字の音訓

以上の如く、漢字には音と訓とあり、音とは支那にての読み方にして、漢字音の略なり。訓とは漢字音を、我國にて國語に譯したる読み方なり。

1 音

漢字には一字にして、二様の音を有するものあり。例へば、
明 ^{メイ} _{アキラカ} 月 ^{グツ} _{ツキ} 行 ^{カウ} _{ユク} 惠 ^{ケイ} _{メグム} 生 ^{セイ} _{ウマ}
明 ^{メイ} _{ミヤウ} 月 ^{グツ} _{グワツ} 行 ^{カウ} _{ギヤウ} 惠 ^{ケイ} _ユ 生 ^{セイ} _{シヤウ}.....漢音

の如し。右方にあるを漢音といひ、左方にあるを吳音といふ。この外明朝の明を(ミン)と呼び、行燈を(アンドン)など呼ぶ、唐音といふものあり。字音は我國に傳はりては、自然に日本音に化し、支那に於ても、古音漸く變遷して、今日の支那語と我國に於ける字音とは、全く別種の有様となれり。漢字音の中、尤も多く用ひらるゝは、漢音と、吳音となり。左に少しく例示せむ。

| | | | | | | | | |
|---|-----|-----|----|-----|----|-----|----|-----|
| 公 | 吳音 | 漢音 | 吳音 | 漢音 | 吳音 | 漢音 | 吳音 | 漢音 |
| 公 | く | こう | 口 | く | 豆 | づ | 通 | つう |
| 奉 | ぶ | ほう | 謀 | む | 樓 | る | 陋 | る |
| 供 | く | きよう | 重 | ちやう | 從 | じゆ | 龍 | りゆう |
| 經 | きやう | けい | 正 | しやう | 京 | きやう | 定 | ぢやう |
| 平 | ひやう | へい | 靈 | りやう | 愛 | わ | 哀 | わ |
| 衣 | い | い | 乙 | おつ | 音 | おん | 役 | やく |
| 穢 | ゑ | ゐい | 會 | ゑ | 遠 | ゑん | 越 | をつ |
| 怨 | をん | ゑん | | くわい | | | | ゑつ |

2 訓

訓にも亦、一字に二つ以上あるものもあり、例へば行を(ユク)(オコナフ)とよみ、生を(イク)(ウム)(オフ)など讀む類はれなり。かく漢字を幾やうにも訓讀する場合には、下に假名を添へて、之れを區別す。例へば、行く、行ふ、生く、生む、生む、生ふ、右の如し、之れを送假名といふ。

3 音訓讀例

- 漢音に讀むもの
 - 學生 ^{ガクセイ} 金力 ^{キンリョク} 竹木 ^{チクボク} 權威 ^{ケンイ} 名譽 ^{メイヨ} 物品 ^{ブツビン} 勉強 ^{ベンキヤウ} 下等 ^{カトウ} 家事 ^{カジ} 武士 ^{ブシ}
 - 解説 ^{カイセツ} 幕府 ^{バクフ} 没落 ^{ボツラク} 會合 ^{クワイガフ} 燭光 ^{ショククワウ}.....等
- 吳音に讀むもの

○唐音に讀むもの
 權現 名聞 下落 家來 遺言 武者 會釋 黃金 沒收 殺生
 貨物 強力 樹木 天幕 蠟燭 過去 解熱劑……等
 行宮 行在所 行燈 行脚 杏子 杜撰 風鈴 緞子 甲板……等

○支那現用音に讀むもの
 上海 芝罘 香港 牛莊 哈爾濱 齊々哈爾……等

○意味の異りによりて音を別ち讀むもの
 乾坤 乾燥 引率 利率 說論 遊說 名刺 刺客 簡易 貿易
 安樂 音樂 讀書 句讀 祝賀 祝儀 善惡 憎惡 殺人 滅殺
 親切 一切 出入 出師 中興 遊興……等

○漢字を書きながら訓讀すべきもの
 日月人猫 山 水 草 木 鳥 獸 家 戸
 柱子 寅 寅 卯 辰 巳 午 未 申 酉 戌 亥
 從弟 〇私語 〇加之 伯父 〇所以 海苔 刷毛 霜枯 軒端 三河
 蝙蝠 〇就中 〇隧道 燐寸 唧筒 麵包 小刀 鐵筆 〇七夕 春日
 草臥 流石 〇團扇 〇五月蠅

○音訓を混讀するもの

○音訓を混讀するもの
 出生 小僧 敷地 役場 重箱 身分 團子 合羽
 日本晴 工場服 勸工場

五、和字

漢字に對して和字なるものあり、こは我國人古くより、漢字にならひて作りたるものなり。故に名附けて和字とはいふなり。もとより漢字にあらざれば、別に字音といふものあらず。唯に訓を附して呼ぶにどまされり。此の種の文字は、其の數至つて多けれど、今は全く廢れて用ひられざるもの多し。左に尤も普通に、用ひられつゝあるものをあぐれば左の如し。

嘶 はなし 風 おろし 梅 さが 笹 ささ 鳩 にほ
 辻 つじ 鳥 はたけ 畑 はた 鏡 やり 禱 たすき 麓 ふもこ
 禁 ふもこ 柳 さかき 鳴 しぎ 俛 おもかけ 檜 かし 鞆 さも
 風 たこ 風 こがらし 風 なぐ 疾 しつり 瑜 せがれ 梓 せがれ
 桃 かうじ 迎 きて 込 み 句 にほひ 怵 こらふる 柞 かせ
 持 かせぐ 働 はたらく 耽 しかさ 適 あつばれ 岡 つかふる 麩 やがて
 櫛 しきみ 櫛 すぎ 認 かすり 袴 かみしも 吠 かます 鏡 かすがひ
 麿 かこ 鱈 さはら 鱈 しびら 鱈 さば 鱈 きす 鱈 いわし
 鯰 なまづ 鯰 はね 鯰 かすのこ 鯰 ぶそ 鯰 あんかう 鯰 たら
 鯰 ざちやう 鯰 しやち 鯰 こち 鯰 すばしり 鯰 このしろ 鯰 なまづ

のなれど、古來慣用の久しき、別體として廣く世に用ひらるものあり。今正體と對照して之れを示さむ。

| | | | | | | | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|----|
| 稿 | 獎 | 繼 | 真 | 密 | 慘 | 參 | 宝 | 状 | 糸 | 迓 | 岩 | 岳 | 劍 | 声 | 万 | 別體 |
| 藥 | 獎 | 繼 | 真 | 密 | 慘 | 參 | 寶 | 狀 | 絲 | 迓 | 巖 | 嶽 | 劍 | 聲 | 萬 | 正體 |
| 崖 | 番 | 樞 | 從 | 旧 | 粘 | 繩 | 肅 | 為 | 麥 | 猷 | 兒 | 筥 | 鏡 | 麻 | 双 | 別體 |
| 崖 | 番 | 樞 | 從 | 舊 | 粘 | 繩 | 肅 | 為 | 麥 | 猷 | 兒 | 筥 | 鏡 | 麻 | 雙 | 正體 |
| 稿 | 壯 | 縱 | 惡 | 却 | 焮 | 窮 | 蕪 | 偽 | 並 | 弃 | 庶 | 処 | 粮 | 与 | 号 | 別體 |
| 藥 | 壯 | 縱 | 惡 | 却 | 焮 | 窮 | 蕪 | 偽 | 並 | 棄 | 廟 | 處 | 糧 | 與 | 號 | 正體 |
| 概 | 莊 | 聳 | 唾 | 舛 | 駢 | 滲 | 繡 | 属 | 楚 | 辞 | 関 | 虫 | 覽 | 仏 | 墟 | 別體 |
| 藥 | 莊 | 聳 | 唾 | 體 | 駢 | 滲 | 繡 | 屬 | 楚 | 辭 | 關 | 蟲 | 覽 | 佛 | 墟 | 正體 |
| 畧 | 歇 | 頭 | 爵 | 鼻 | 珎 | 蠅 | 囁 | 蒺 | 麵 | 弥 | 斷 | 即 | 竜 | 画 | 汎 | 別體 |
| 略 | 獨 | 頭 | 爵 | 鼻 | 珍 | 蠅 | 囁 | 蒺 | 麵 | 彌 | 斷 | 即 | 龍 | 畫 | 汎 | 正體 |
| 峰 | 滅 | 徑 | 踪 | 脚 | 促 | 尽 | 曠 | 誦 | 誦 | 將 | 乱 | 尔 | 欵 | 滴 | 彼 | 別體 |
| 峯 | 滅 | 徑 | 蹤 | 腳 | 促 | 盡 | 曠 | 誦 | 誦 | 將 | 亂 | 爾 | 款 | 滴 | 彼 | 正體 |

(注意) ○符の別體は、本體と意義を異にすれども、慣用上用ふる事となれり。●符の別體は、數量に限りて用ふ。
○左の如きは、なるべく正體を用ひ、別體を避くべし。

| | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|----|----|
| 腸 | 崎 | 衡 | 巖 | 垂 | 替 | 柏 | 正體 |
| 腸 | 崎 | 衡 | 巖 | 垂 | 替 | 柏 | 別體 |
| 景 | 看 | 就 | 競 | 美 | 吐 | 正體 | |
| 景 | 看 | 就 | 競 | 美 | 吐 | 別體 | |
| 掠 | 究 | 場 | 坐 | 京 | 土 | 正體 | |
| 掠 | 究 | 場 | 坐 | 京 | 土 | 別體 | |
| 騎 | 局 | 倚 | 挫 | 凉 | 佞 | 正體 | |
| 騎 | 局 | 倚 | 挫 | 凉 | 佞 | 別體 | |
| 嚴 | 影 | 睡 | 函 | 奇 | 郵 | 正體 | |
| 嚴 | 影 | 睡 | 函 | 奇 | 郵 | 別體 | |
| 儼 | 笑 | 幸 | 涵 | 寄 | 鼓 | 正體 | |
| 儼 | 笑 | 幸 | 涵 | 寄 | 鼓 | 別體 | |
| 丁 | 胆 | 鞍 | 經 | 峩 | 崙 | 正體 | |
| 丁 | 胆 | 鞍 | 經 | 峩 | 崙 | 別體 | |
| 丁 | 胆 | 鞍 | 經 | 峩 | 崙 | 別體 | |
| 丁 | 胆 | 鞍 | 經 | 峩 | 崙 | 別體 | |

○偏旁の構造を變換して、全く別字となるもの。
 怠・拾 (ヒロフ) (オコタル)
 怡・拿 (琴の俗字) (ヨロコブ)
 衿・吟 (吟詠) (エリ)
 衾・含 (フグム) (フスマ)

- 抄 (スガメ)
- 柔 (シチリ)
- 翊 (輔翊)
- 棘 (荆棘)
- 擗 (胸をうつ)
- 省 (カヘリミル)
- 枿 (マスガタ)
- 翌 (翌日)
- 棊 (ナツメ)
- 擗 (大指)
- 猶 (ナホ)
- 腑 (臆腑)
- 愉 (愉快)
- 紋 (モン)
- 悱 (憤悱)
- 猷 (ハカリゴト)
- 猷 (クサル)
- 愈 (平愈)
- 紊 (ミダル)
- 悲 (カナシム)
- 疎 (疎疎、暗疎)
- 邪 (邪道、正邪)
- 巖 (イハ、イハホ)
- 耶 (耶蘇)
- 疎 (疎略、疎遠)
- 耶 (耶蘇)
- 岩 (岩、岩)
- 个 (個性、個人)
- 疏 (疏、暗疎)
- 邪 (邪道、正邪)
- 巖 (肉食、豚肉)
- 耶 (耶蘇)
- 个 (個性、個人)
- 疏 (疎略、疎遠)
- 邪 (邪道、正邪)
- 巖 (肉食、豚肉)
- 耶 (耶蘇)
- 个 (個性、個人)

○同一文字を、字體を異にするに因り、別字の如く用ふるもの、

八、相似字辨

漢字には字畫の相類似して、特に紛はしきもの多し。注意して其の誤用をさげざるべからず。今左に、最も紛らはしきものを列舉せむ。

- 刀 (カタナ)
- 刀 (ツクエ)
- 刀 (ヤイバ)
- 刀 (ナミ、スベテ、オホヨソ)
- 刀 (ギズ)
- 刀 (風の心しく吹く顔)

三 畫

- 弋 (イゲルミ)
- 干 (モトム、アツカル)
- 己 (オノレ、ツチノト)
- 戈 (ホコ)
- 子 (助詞)
- 己 (ステニ、サル)
- 又 (コマメク)
- 子 (コ)
- 又 (古文の爪)
- 子 (孤獨の顔)

四 畫

- 爪 (ツメ)
- 幻 (マホロシ)
- 日 (ヒ)
- 切 (セマル、キル)
- 厄 (ワザハヒ)
- 欠 (アクビ)
- 不 (ヒコバエ)
- 母 (ハハ)
- 刊 (キル)
- 瓜 (ワリ)
- 幼 (イトケナシ)
- 日 (イハク)
- 功 (チガラ)
- 危 (アヤウシ)
- 云 (イフ)
- 母 (ツラメク)
- 刊 (キザム)
- 瓜 (ワリ)
- 幼 (イトケナシ)
- 日 (イハク)
- 功 (チガラ)
- 危 (アヤウシ)
- 云 (イフ)
- 母 (ツラメク)
- 刊 (キザム)

五 畫

- 壬 (ミズノエ)
- 勿 (ナカレ)
- 无 (ノドカツマル)
- 穴 (ムダ)
- 不 (アラズ)
- 母 (ナカレ)
- 四 (ヨツ)
- 四 (アミ)

| | | | | | | | | | | | | | |
|----------------------|---------------------|----------------------|----------------------|---------------------|---------------------|----------------------|---------------------|---------------------|----------------------|---------------------|----------------------|----------------------|---------------------|
| 先 <small>キ</small> | 李 <small>リ</small> | 灸 <small>キユウ</small> | 盲 <small>クワウ</small> | 技 <small>ギ</small> | 貝 <small>バイ</small> | 酉 <small>ウ</small> | 竿 <small>カン</small> | 伉 <small>カウ</small> | 良 <small>リョウ</small> | 曳 <small>エイ</small> | 佞 <small>ネイ</small> | 肋 <small>ロク</small> | 東 <small>トウ</small> |
| (ヨコシマ) | (モ) | (ヤイト) | (胸の上の所) | (リザ) | (カヒ) | (トリ) | (竹ザチ) | (タカヒ) | (ヨシ) | (ヒク) | (ホトギ) | (アバラ) | (草木のハリ) |
| 七 畫 | | | | | | | | | | | | | |
| 窮 <small>キウ</small> | 季 <small>キ</small> | 灸 <small>キユウ</small> | 盲 <small>モウ</small> | 枝 <small>シ</small> | 具 <small>グ</small> | 管 <small>クワン</small> | 竿 <small>カン</small> | 坑 <small>カウ</small> | 至 <small>シ</small> | 與 <small>ユ</small> | 岳 <small>ガク</small> | 助 <small>ジュ</small> | 東 <small>トウ</small> |
| (キハマル) | (スエ) | (アアル、チカツク) | (メシヒ) | (エダ) | (ウツホ) | (カシラ) | (フエ) | (アナ) | (イダル) | (シバラク) | (ヤマ) | (タスク) | (タバヌ) |
| 〇 | | | | | | | | | | | | | |
| 狂 <small>キヤウ</small> | 季 <small>キ</small> | 沂 <small>ギ</small> | 邪 <small>ジャ</small> | 快 <small>カイ</small> | 辛 <small>シン</small> | 坐 <small>ザ</small> | 址 <small>シ</small> | 抗 <small>カウ</small> | 致 <small>チ</small> | 叟 <small>ソウ</small> | 妄 <small>バウ</small> | 州 <small>シュウ</small> | 決 <small>ケツ</small> |
| (クルフ) | (年) | (地名、水名) | (ヨコシマ) | (コ、ロヨシ) | (カラシ) | (スワル) | (モト井) | (アタル) | (イダス) | (オヤヤ) | (ミダリ、イツハリ) | (クニ) | (キメル、ケツシテ) |
| 柱 <small>チユウ</small> | 究 <small>キウ</small> | 沂 <small>ツ</small> | 耶 <small>ヤ</small> | 快 <small>ア</small> | 辛 <small>ケン</small> | 座 <small>ザ</small> | 趾 <small>シ</small> | 到 <small>トウ</small> | 良 <small>リョウ</small> | 忘 <small>ワウ</small> | 洲 <small>シュウ</small> | 決 <small>ケツ</small> | |
| (ハシラ) | (キナム) | (サカノボル) | (疑問の詞) | (ウラム) | (ツミ) | (キドコロ) | (アシアト、アシユビ) | (イタリツク) | (ウシトラ) | (ワスル) | (シマ) | (決の別字) | |

4

| | | | | | | | | | | | | | |
|----------------------|---------------------|----------------------|---------------------|---------------------|---------------------|---------------------|----------------------|---------------------|---------------------|---------------------|----------------------|---------------------|---------------------|
| 仰 <small>オウ</small> | 西 <small>セイ</small> | 糸 <small>シ</small> | 未 <small>ミ</small> | 戌 <small>シュ</small> | 卯 <small>ボウ</small> | 叱 <small>シツ</small> | 本 <small>ホン</small> | 囚 <small>シユ</small> | 且 <small>シヨ</small> | 矢 <small>シ</small> | 求 <small>キウ</small> | 冉 <small>ゼン</small> | 史 <small>シ</small> |
| (アフガ) | (ニシ) | (イト) | (スキ) | (イヌ) | (ウ) | (シカル) | (オモムク) | (トラフ) | (カツ、カリソメ) | (ヤ) | (モトム) | (ス、ム) | (フミ) |
| 六 畫 | | | | | | | | | | | | | |
| 抑 <small>ヨウ</small> | 兩 <small>リウ</small> | 系 <small>ケイ</small> | 來 <small>ライ</small> | 戌 <small>シュ</small> | 印 <small>イン</small> | 圮 <small>ヒ</small> | 旬 <small>ジュン</small> | 困 <small>コン</small> | 旦 <small>タン</small> | 失 <small>シツ</small> | 尨 <small>ジユウ</small> | 再 <small>ゼン</small> | 吏 <small>リ</small> |
| (オサフ) | (オホフ) | (スサ) | (キタル) | (マモル) | (ワレ) | (コホツ) | (文旬) | (ヨル、チナム) | (アタタ) | (ウシナフ) | (モチアハ) | (フタ、ビ) | (ツカサビト) |
| 旬 <small>ジュン</small> | 汗 <small>カン</small> | 享 <small>カウ</small> | 考 <small>カウ</small> | 戒 <small>ゲイ</small> | 戌 <small>シュ</small> | 圮 <small>ヒ</small> | 旬 <small>ジュン</small> | 困 <small>コン</small> | 互 <small>ゴ</small> | 吊 <small>テウ</small> | 白 <small>ハク</small> | 汜 <small>ヒ</small> | 未 <small>ミ</small> |
| (ム子) | (アセ) | (トホル) | (カンガフ) | (ツハモノ、エビス) | (マサカリ) | (ツチバシ) | (十日の事) | (カルシム) | (タガヒ) | (トムラフ) | (シロシ) | (ウカビタマヨフ) | (イマダ) |
| 旬 <small>カウ</small> | 汗 <small>フ</small> | 享 <small>キヤウ</small> | 孝 <small>カウ</small> | 戒 <small>カイ</small> | 戌 <small>ガク</small> | 印 <small>イン</small> | 叱 <small>クウ</small> | 本 <small>ホン</small> | 互 <small>カウ</small> | 吊 <small>テウ</small> | 白 <small>キウ</small> | 汜 <small>シ</small> | 末 <small>モト</small> |
| (モトム、ゴフ) | (ケガル) | (ウクル) | (親に事ふ) | (イマシム) | (ツチノエ) | (シルシ) | (口を開く) | (モト) | (ワタル) | (ツル) | (ウス) | (田ドミ) | (スエ) |

協カウ (オツル)
 侍サマ (マツ、アシラフ)
 沿ゾフ (ソフ)
 歿シヌ (シヌ)
 宦クワン (ミヤツカヘ)
 杏エウ (トホシ、クラシ)
 殺コロス (コロス)
 牧マキバ (マキバ)
 率シユツ (サツバリスル)
 倒タフル (タフル)
 冤ウヅル (無實の罪)

九 畫

届カイ (ト、ク、イタル)
 岡カウ (チカ)
 券ケン (ツカル)
 服フク (キモノ)
 忽コツ (タチマチ、ユルカセ)
 卦ケ (算木の面にあらは)

届ケン (火)
 罔マウ (人ナナミスル)
 券ケン (フダ)
 腹ハラ (ハラ)
 忽コツ (イソガハシ)
 封ホウ (サカイ)

侍サマ (サアラフ)
 沼セウ (メマ)
 没ボツ (シツム)
 官クワン (ツカサ)
 查サ (シラブル)
 刹サク (テラ)
 枚マシ (數ふるに用ふ)
 卒ソツ (ニハカ)
 例レイ (タグヒ)
 兔ウ (免の別體)

枉カウ (マガル)
 夾カウ (チカシ、サシハサム)
 抑ヨウ (オサフ、ソモク)
 况キヤウ (コ、ロ)
 秋シウ (アキ)
 延エン (ナガシ)
 抄セウ (ウツス)

八 畫

折セツ (ナル)
 爽セウ (ヌスム、タモツ)
 柳リウ (ヤナギ)
 邵セウ (タカシ)
 宋ソウ (國の名)
 低テイ (ヒクシ)
 抄セウ (コズエ)

桥セキ (ワカツ)
 治チ (キダフ)
 况キヤウ (タトフ、イハンヤ)
 卻セウ (人の姓)
 宗ソウ (本家)
 抵テイ (アタル)
 秒ベウ (微細なるないふ)

拆チ (ウツ、ヒラク)
 治チ (チサム)
 况キヤウ (況の別體)
 狄テイ (エビス)
 廷テイ (政を行ふ所)
 抵テイ (根)
 易イ (アガル)
 兩リウ (フタツ、フタ、ビ)
 辰チン (クサビ)
 妹メイ (妹孃、人の名)
 刺サ (サス、ソシル)
 東トウ (ヒガシ)
 協カウ (カナフ)

班 陝 傲 除 律 普 從 崇 姫 秦 徑 盍 狹 陸
 (マダラ) (陝西省) (ナラフ) (カハル) (ス、マヌコト) (アマチシ) (シタガフ) (タ、ハル) (ツ、シム) (國の名) (コミチ、ナホシ) (覆也) (セマシ) (キザハシ)

十 畫

針 栗 凍 啄 清 畜 宵 崇 姫 秦 經 蓋 陸
 (ハリ) (クリ) (コホル) (ツイバム) (ス、シ、サムシ) (ケモノ) (ヨル) (アガム) (ヒメ) (ヤスシ) (タテ) (ケダシ) (リク)

釘 粟 凍 啄 清 蓄 霄 徒 浙 尊 恭 捐 俠
 (クギ) (アハ) (暴雨) (クサバシ) (キヨシ) (タクハフ) (ソラ) (イタヅラ) (浙江省) (アマチシ) (ウヤ、シ) (スツ) (ナトコダテ)

眠 班 陝 傲 徐 併 晋 徒 浙 專 忝 損 挾
 (子ムル) (クラ井) (セマシ) (ナラフ) (シツカ) (タハケル) (ス、ム) (ワツル) (米をこぐ) (モツバラ) (カタシケナシ) (ハラス) (ハサム)

卻 隻 怒 候 述 城 奕 持 侮 俗 活 胃 糾 段 味 昧
 (シリゾク) (ひこつ) (イカル) (サブラフ) (ノア) (シロ) (盛なり) (モツ) (アナドル) (ナラハシ、ナミ) (イク) (カアト) (アザナフ) (假に同じ) (アツハヒ) (目)

郤 雙 怨 侯 述 域 弈 特 悔 浴 浩 胃 紀 科 虐
 (村の名) (ふたつ) (オモヒヤリ) (キミ) (トモ) (サカヒ) (圍碁) (コトナル、トリロゲ) (クユ) (ユアミ) (オホヒナリ) (チスザ) (ホサム) (キマリ) (シヒメグ)

柱 赴 背 陣 帥 促 勅 修 茶 侵 冠 苦 記 料 虚
 (ハシラ) (オモムグ) (セナ) (軍兵の隊列) (ウナガス) (ナサ) (ミコトノリ) (ナサム) (チヤ) (チカス) (カンムリ) (クルシム) (シルス) (シロ) (ムナシ)

桂 趣 春 陳 師 捉 救 脩 茶 浸 寇 若 胃 料 段
 (カツラ) (オモムキ) (セボ子) (ツラヌ) (イクサ) (トラフ) (イマシム) (ナガシ) (ニガナ) (ヒタス) (アダ) (モシ、ロカシ) (腸胃) (黄色の絲) (田の廣さ)

啄ツク (ツイバム)
 逐ツク (オフ)
 貧マツシ (マツシ)
 傳モリヤク (モリヤク)
 勒クツア (クツア)
 項ウナシ (ウナシ)
 楷文字の一體 (文字の一體)
 測ハカル (ハカル)
 堆ウツタカシ (ウツタカシ)

十二畫

齋モノイミ (モノイミ)
 管カダ (カダ)
 散ナル (ナル)
 渾スメテ (スメテ)
 注ソ、グ (ソ、グ)
 推オス (オス)
 喜ヨロコブ (ヨロコブ)
 階キザハシ (キザハシ)
 密ヒソカ (ヒソカ)
 勤ツトム (ツトム)
 傳ツタフ (ツタフ)
 貧ムサホル (ムサホル)
 遂ツイニ、トク (ツイニ、トク)
 啄クチバシ (クチバシ)

偏ヒトヘニ (ヒトヘニ)
 穀タナツモノ (タナツモノ)
 姪タノシム、ヨコシマ (タノシム、ヨコシマ)
 捧サ、グ (サ、グ)
 頃コロ、シバラク (コロ、シバラク)
 蜜ミツ (ミツ)
 側ソバ (ソバ)
 善ヨシ (ヨシ)
 推ツチ (ツチ)

獨アマチク (アマチク)
 穀カラ (カラ)
 婦ウツクシ (ウツクシ)
 棒ツエ (ツエ)
 頂イタマキ (イタマキ)
 偕トモニ (トモニ)
 側イタム (イタム)
 嘉ヨミス (ヨミス)

施ホドコス (ホドコス)
 書フミ (フミ)
 晰アキラカ (アキラカ)
 祖ハダヌギ (ハダヌギ)
 紀シルス (シルス)
 眼マナコ (マナコ)

十一畫

萩チギ (チギ)
 執タレ、イヅレ (タレ、イヅレ)
 商アキナヒ (アキナヒ)
 毫トガリタル毛 (トガリタル毛)
 淮水の名 (水の名)
 減ヘル (ヘル)
 訴ヨロコブ (ヨロコブ)
 意オモフ (オモフ)
 旋メグル (メグル)
 畫ヒル (ヒル)
 哲イロシロシ (イロシロシ)
 師イクサ、センセイ (イクサ、センセイ)
 倭ヤマト (ヤマト)
 倫ミチ (ミチ)

跌ツリバリ、カギ (ツリバリ、カギ)
 鈎ツル (ツル)
 鈎ユルス (ユルス)
 牽ヒク (ヒク)
 卿朝廷の上官 (朝廷の上官)
 場クニザカヒ (クニザカヒ)
 唯タビ (タビ)
 畫ハカル、エガク (ハカル、エガク)
 涉ワタル (ワタル)
 帥ヒキ井ル (ヒキ井ル)
 矮ヒクシ (ヒクシ)
 論アゲツラフ (アゲツラフ)

跌ツマツク (ツマツク)
 鈎鈎の別體 (鈎の別體)
 鈎重量 (重量)
 根アカシ (アカシ)
 率ヒキ井ル (ヒキ井ル)
 鄉サト (サト)
 場バ (バ)
 惟タビ、オモフ (タビ、オモフ)
 旅タビ (タビ)
 陟ス、ム (ス、ム)
 哲サトシ (サトシ)
 祖オヤ、オホザ (オヤ、オホザ)
 記オボユ、シルス (オボユ、シルス)

還クワン (カヘル)
 網アミ (アミ)
 束ナツメ (ナツメ)
 競キョウ (競の別體)
 借カマ (ミダリカハシ)
 摸サツス (サツス)
 榮サカユ (サカユ)
 緣エリ (ヘリ、ユカリ)
 縁ミドリ (ミドリ)
 頰ソカツ (ソカツ)
 慶コメケラ (コメケラ)
 豐ホウ (豊の正體)
 微スコシ (スコシ)
 暗ミル (ミル)

十四畫

幣ヘイ (メサ、タカラ)
 滔トウ (水の流るゝなり)
 瑣ソ (コマカシ)
 構カマ (カマ)
 僭ケン (分なしゆる事)
 模モ (テホン)
 榮エイ (地名)
 錄ロク (シルス)
 頌ソウ (チサム)
 復フク (フタ、ヒ)
 羨セン (ムサホル、チガフ)
 微ミ (メス、シルシ)
 賭ト (カケ)
 弊ヘイ (ヤブル)
 陷カン (オチキル)
 鎖サ (クサリ)
 構カウ (ヒク)
 兢キョウ (戒むるなり)
 疑ギ (ウタガフ)
 概ガイ (ナゲク)

蓬ホウ (ヨモギ)
 選セン (雜り行く)
 網アミ (ツナ)
 棘キョク (イバラ)
 競キョウ (キソフ)
 擬ギ (コル)
 概ガイ (オホム子)
 緣エリ (タスク)
 碌ロク (人に隨從する類)
 頌ソウ (ワク)
 豐ホウ (禮の正體、又豊の別體)
 詰ツク (ツク)

暑シュ (アツシ)
 解カイ (トク)
 催サイ (モヨホス)
 董トウ (タニス)
 裏ウラ (ウラ)
 暗クワン (クラシ)
 鳴メイ (歎息の聲)
 端タン (タマシ)
 喘セン (アヘク)
 勤キン (ツトム)
 飭シヨク (イマシム)
 萃スイ (アツマル)
 壺ツボ (ツボ)
 喟クワイ (ナゲク)

十三畫

署シヨ (ヤクシヨ、シルス)
 斛コク (十斗の事)
 摧サイ (クダク)
 薰クワン (カナル)
 裏ウラ (ツ、ム)
 諳アン (ソランズ)
 鳴メイ (ナク)
 瑞ズイ (メテタキシルシ)
 揣チュイ (ハカル)
 勸クワン (ス、ム)
 飾シヨク (カザル)
 粹スイ (マジリナシ)
 壺ツボ (宮中を往來する道)
 涓ケン (水の名)
 肅シュ (シツカ)
 資シ (タカラ、モト、マチ)
 肆シ (ホシイマ、ミセ)
 媾ゴウ (ヨシミ)
 幹カン (ミキ)
 與ヨ (アツカル、アトフ)
 載サイ (ノス)
 備ズイ (オソル)
 歡クワン (ヨロコブ)
 貸カイ (カス)
 惰ダ (オコタル)
 適シヨク (セマル、イソク)
 裁サイ (タツ)

蕭シヨウ (サビシ)
 質シツ (モト)
 肄シ (ナラフ)
 講コウ (トク)
 幹カン (メケル)
 與ヨ (オコル)
 戴タイ (イタマク)
 湍タン (急流)
 歎クワン (ナゲク)
 賃チン (雇の報酬)
 隋ズイ (國の名)
 遵ズン (シタガフ)
 裁サイ (ウユ)

錫シヤク (スマ) 撿ケン (ツカメ) 穎エイ (錐の柄) 摩マ (スル) 擔タン (オフ) 罷ヒ (ツカル) 厥クワ (タケシ) 踐セン (フム) 撲ボク (ウツ) 歐オウ (ハク) 僥ヤウ (サイハヒ) 稿カウ (シタガキ) 蓬ホウ (トマ)

十五畫

錫シヤク (馬の道具) 檢ケン (トリシラブ) 穎エイ (水の名) 磨マ (ミガク) 檐エン (ノキ) 罹リ (カール) 厥クワ (ツマヅク) 餞セン (ハナムケ) 模ボ (カタ) 殿テン (ウツ) 繞ヤウ (タロム) 熟ジュク (ナル) 稗ハイ (ヒエ)

憶オク (オモフ) 險ケン (アヤブシ、ケハシ) 穎エイ (スグル) 樂ラク (タノシ) 磐バン (イハ) 瀉シャ (ソ、グ) 撰セン (ツクル) 賣バイ (ウル) 模ボ (木のキザ) 謳オウ (ウタフ) 繞ヤウ (メグル) 塾ジュク (學を修むる堂) 裨ハイ (タスク)

臆オク (ムチ) 驗ケン (タメス) 儉ケン (ツ、マヤカ) 藥ヤク (クスリ) 盤バン (物を盛る器) 瀉シャ (カタ) 選セン (エラブ) 賣バイ (テラフ) 僕ボク (シモベ) 嘔オウ (ハク) 熱ネツ (アツシ) 稿カウ (枯る)

飄ヒョウ (ヒルガヘル) 禪ゼン (ヒトヘ) 證テイ (シツカ) 煉レン (火にてチル) 鍾シュウ (アツマル) 薄ハク (ウスシ) 鍛タン (キタフ) 辨ベン (力を致す事) 羸エイ (アマル) 壁ヘキ (カベ) 彊キヤウ (ツトム) 操ソウ (ミサチ) 遺イ (ノコス)

十七畫

斂レン (チサム) 騰トウ (ウツス) 證テイ (笑ふ顔) 練レン (チル) 鐘シュウ (ツクカチ) 簿ボ (帳簿) 銀ギン (カプト) 辯ベン (言説の巧なる事) 羸エイ (ヤス、ツカル) 壁ヘキ (タマ) 疆キヤウ (サカヒ) 線セン (クル) 遺イ (ツカハス)

斂レン (ムサボル) 騰トウ (ノボル) 證テイ (オクリ名) 楨テイ (イサチ) 鍊レン (キタフ) 擊キキ (ウツ) 優イウ (スグル、ヤハラグ) 辨ベン (花びら) 羸エイ (アマル、カツ) 獲ワク (カル) 憐レン (アハレム) 纂サン (ウベフ) 歷レイ (フル)

瓢ヒョウ (ヒサゴ) 禪ゼン (シツカ) 蹟セキ (アト) 鍊レン (クサビ) 繫ケイ (ツナグ) 擾ゾウ (ミダル) 辨ベン (クム) 辨ベン (ワカツ) 種シュウ (カル) 隣リン (トナリ) 纂サン (アツム) 曆レイ (ココミ)

十八畫以上

| | | | |
|----------------------|----------------------|----------------------|----------------------|
| 聴 <small>キク</small> | 聴 <small>トク</small> | 藉 <small>セキ</small> | 籍 <small>セキ</small> |
| 籐 <small>トウ</small> | 藤 <small>トウ</small> | 職 <small>シヨク</small> | 織 <small>オリ</small> |
| 識 <small>シキ</small> | 箆 <small>シヤク</small> | 蕈 <small>シノコ</small> | 箆 <small>シヤク</small> |
| 牆 <small>カキ</small> | 橋 <small>ハシ</small> | 稿 <small>コウ</small> | 斲 <small>ソク</small> |
| 飲 <small>キ</small> | 嚴 <small>ゲン</small> | 巖 <small>イハ</small> | 警 <small>セイ</small> |
| 驚 <small>キヤウ</small> | 懶 <small>ラン</small> | 懶 <small>ラン</small> | 壞 <small>クワ</small> |
| 懷 <small>クワイ</small> | 壞 <small>クワ</small> | 攘 <small>ジヤウ</small> | 懺 <small>ゼン</small> |
| 穢 <small>セ</small> | 霸 <small>ハ</small> | 羈 <small>キ</small> | 囊 <small>ナウ</small> |
| 囊 <small>ナウ</small> | 勸 <small>クワン</small> | 歡 <small>クワン</small> | 勤 <small>キン</small> |
| 觀 <small>クワン</small> | 觀 <small>クワン</small> | 瞻 <small>ゼン</small> | 膽 <small>タン</small> |

八、同訓字辨

漢字には同訓異議の字多し。之れが區別を知る事甚だ困難なり。今左に日常普通に用ふるものにつきて、其の意義とそれが簡單なる用法とを示さむ。

【あぢ】 嗚呼 噫 嗟

嗚呼(其の用法廣く、嘆美にも、哀傷にも、悲痛にも用ふ)。「サテモ〜」。噫(哀痛の辭)。「エ、」。嗟(感心して發する辭)。「コレハ〜」。

【あかし】 赤 朱 紅 赭 緋

赤(濃淡の中を得たるもの)。朱(赤より色こきもの)。紅(桃色のこきもの、マニ色なり)。赭(へにがら色赤と黒とのまじり色)。緋(もはたつばりの花々しき色)。

【あきらか】 明 皎 晃

明(其の用法廣し)。皎(明に潔白の意を帶ぶ)。晃(あやや)。

【あゝ】 飽 厭

(飽十分に満足する事)。厭(いやになる意)。

【あご】 上 舉 揚 稱 昂

上(上に置く、のぼす)。舉(持ちあぐ)。揚(高くあぐ)。稱(言葉にてほめあぐ)。昂(氣があがる)。

【あした】 旦 晨 朝

旦(太陽の地平線を離れた時)。晨(旦より早き時刻)。朝(旦よりも遅き時刻)。

【あだ】 仇 讐 寇

仇(怨の出來たあだ)。讐(言ひ破りて、あだに報ゆ)。寇(押しよする敵)。

【あたかも】 恰 宛

怡(よく物の合ふ事)。宛(恰より少しゆるし)。「サナガラ」。

【あたたかし】 温ユル 暖ヌク 暄クワイ

温(ぬるま湯)。暖(暑からず、寒からず)。暄(氣候のあたたかなる事)。

【あたる】 中ナカ 當タウ 方ハツ

中(目的に適中する事)。當(彼と此とがピッタリあたる事)。方(事にさしあたりて丁度の意)。

【あづかる】 預ヨ 與ヨ 豫ヨ 干カン 關クワン

預(與、豫(かりあひて、あづかる事)。干(さし出てあづかる)。關(心がより思ひあづかる)。

【あつし】 厚コウ 篤トク 敦トシ

厚(は薄の反対、又物に用心の深き事)。篤(しまりある事)。敦(しつとりあつき事)。

【あつむ】 集シツ 輯シツ 聚シュ

集(寄りあつまる)。輯(とりにあつむる)。聚(一所へあつまる)。

【あと】 跡セキ 迹セキ 蹟セキ 址シ 痕コン 痕コン 踪ソウ

跡(跡、蹟、址(足あと)の意)。痕(あとのつきて後に遺る事)。踪(跡よりも確ならぬ意)。

【あな】 穴ケツ 孔コウ 坑コウ

穴(底のあるあな)。孔(つきぬけたあな)。坑(ほらあな)。

【あなごる】 侮ブ 慢マン

侮(心中に人をあなごる)。慢(言語動作に出して人をあなごる)。

【あはす】 併ヘイ 配ハイ 合カフ 協ケウ

併(一つに寄せあはす)。配(二つを一つに寄せあはす)。合(一つのものごす)。協(和合す。力をあはす)。

【あはれむ】 憐レン 憫キン 愍ミン 哀アイ 恤シツ

憐(はやく思ふ)。憫(憐(フビシ)に思ふ)。哀(かなしき程フビシに思ふ)。恤(愛して自分のものゝやうに思ふ。目をかけ

【あふ】 逢ホウ 遇ユ 遭サウ 合カフ 會クワイ

逢(出迎へてあふ)。遇(ふとあふ事)。遭(意外の折にあふ事)。合(ピッタリとあふ)。會(場合を定めてあふ)。

【あまねし】 周シュウ 普フ 徧ヘン 遍ヘン 治チ

周(隅々まで行きまわく意)。普(手廣き事)。徧(一わたり行きわたる事)。治(むらなしに行きわたる)。

【あまり】 餘ヨ 剩ジョウ

餘(物の充滿して殘餘のある事)。剩(物の定まりより多き事)。

【あやふし】 危キ 殆タイ

危(安に對し、危険ある事)。殆(不安心なる事)。

【あやまり】 謬ビョウ 誤ゴ 錯サク 過カワ

謬(すぢみちの違ひ、狂ひあやまる)。誤(書きあやまる)。錯(振りちかへてあやまる)。過(悪意なくして思はずをかす悪事)。

【あらたむ】 改^{カイ} 革^{カク} 俊^{シュン}

改(事物を新になりたる事)。革(さらりとかはる事)。俊(心を改むる事)。

【あらはる】 見^{ケン} 現^{ゲン} 顯^{ケン} 著^チ 露^ロ 彰^{シヤウ} 覺^{カク} 表^{ヘウ}

見、現(隠れたるものが、表へあらはる)。顯(明かにあらはる事)。著(いちじるしく見ゆる事)。露(むきだしになる事)。彰(あや、模様などの明かに見ゆる事)。覺(目にこまらざるもの、外にあらはれたる事)。表(裏の反對、おもてにあらはる)。

【あらふ】 洗^{セン} 濯^{タク} 滌^{テイ}

洗(水にて清むる事)。濯(あかをこる事)。滌(あらひ流す事)。

【あり】 有^{イウ} 在^{ザイ}

有(無に對す。物事のある事)。在(ニアルの意存在又居所をあらはす)。

い の 部

【いかる】 怒^ド 悲^イ 憤^{フン} 慍^{ウん} 忿^{フン}

怒(喜に對す顔色をかへていかる)。悲(くちなしく思ふ)。憤(心中に鬱積して發するいかり)。慍(心にむつとする事)。忿(心中にて立腹する事)。

【いゝ】 生^{セイ} 活^{カツ}

生(死の反對)。活(生きて立ちはたらく意)。

【いゝぢ】 軍^{グン} 師^シ

軍(支那の上世に、一萬五千五百人の稱)。師(同上二萬五千人の稱)。

【いこぶ】 息^{ソク} 憩^{ケイ} 休^{キウ}

息(安樂にやすむ事)。憩(途中にて小やすみする事)。休(仕事又務の休む事)。

【いさを】 績^{セキ} 功^{コウ} 勳^{クン}

績(事業の成就せるもの)。功(物事の思ふ通りに成就せる意)。勳(事を成就して身に光彩あるをいふ)。

【いろがはし】 急^{キウ} 忙^{バウ} 忽^{フツ}

急(緩の反對、せはしき意)。忙(閑の反對ひまなき事)。忽(いそがはしく落付かぬ意)。

【いだく】 抱^{ハウ} 懷^{クワイ} 擁^{ユウ}

抱(かゝへもつ事)。懷(心に思ひこめてなる事)。擁(周圍をいだきて内にする事)。

【いたむ】 痛^{ツウ} 疼^{トウ} 悼^{タウ} 傷^{シヤウ} 慘^{サン}

痛(いたみを覺ゆ苦しむ)。疼(いたみの終始やまぬ事)。悼(なげかはしく思ふ)。傷(きづつきたむ、強く悲しむ)。慘(むき様にいふ)。

【いたる】 至^シ 到^{タウ} 詣^{ケイ}

至(一方より出て来る事)。到(至りつく事)。詣(進み至る)。

【いつはり】 偽^キ 詐^サ

偽(わざと表を飾る)。詐(あざむきます)。

【いどげなし】 幼コウ 稚チ 嬰エイ 孩ガイ

幼(十九歳までをいふ)。稚(十歳前後の子供)。嬰(みどり兒、四五歳までの小兒)。孩(人を見ふ頃の子供)。

【いどま】 暇カ 遑クワン

暇(する事がなくて、ひまな事)。遑(他の事までも手の届かぬ事)。

【いぬ】 寢シン 寐ビ

寢(ねころぶ、床に就く事)。寐(よくねむる事)。

【いのる】 祈ネ 禱ノル

祈(時に當りて祈る事)。禱(平生いのる意)。

【いふ】 曰テ 云クワ 言ゲン 謂ヰ

曰(人の言葉を直にうつつす事)。云(と申す事であるの意)。言(心に思ふ事を口に述べ事)。謂(言とは同じ。又批評の意となる事あり)。

【いましむ】 戒カイ 誠ケイ 警ケイ 箴シン

戒(前以て注意する事)。誠(戒とは同じ。用心さす事。又いましめのこと言葉)。警(驚かして用心さす)。箴(不善をいましむ)。

【いやし】 賤ゼン 卑ヒ 鄙ヒ

賤(貴に對す。位のひくきもの)。卑(尊の反對、下なるものといふ)。鄙(様子のみすばらしく、下品なる事)。

【いゝる】 容ヨウ 入ニツ 納ナツ

容(中にいれこむ事)。入(出るの反對、境の内にいる事)。納(出すの反對、物を受けいる事)。

【う】 得トク 獲トク

得(失の反對、わがものとする)。獲(捕へ得た事)。

【う】 植シヨク 種シユ 栽サイ

植(倒れぬやうに、うゑ立つる意)。種(種子を蒔きて植うる事)。栽(若木をうゑて、手入れる事)。

【う】 飢キ 饑キ 饑キン 餓ガ

飢(人の食物を得ざる事)。饑(二穀の凶作、食物のなき意)。饑(三穀の凶作なるをいふ)。餓(食物を食ふ力もなきに至れる事)。

【うかがふ】 伺シ 窺キ 偵テイ 諜ダ

伺(ひそかに様子をはかる)。窺(すきをうかがふ、又物の中より、のぞき見る)。偵(ひそかに様子を視察する)。諜(間者をに入れてさぐる)。

【う】 受ジュ 承ショウ 承キョウ 享キョウ 饗キョウ 稟リン 請セイ

受(手に物を受く)。承(下より上の物を受く)。享、饗(ささげうく)。稟(天又は尊長よりうく)。請(彼方の意をうく)。

【うごく】 動ドウ 搖エウ

動(靜の反對、廣く用ふ)。搖(定の反對、ゆるぐと動く)。

【うしなふ】 失^{シラ} 喪^{サウ} 亡^{バウ}

失(得の反対、取りおこしたる事)。喪(再び取りかへし難き事、亡くなる)。亡(存の反対、ほろびて自然にうする事)。

【うたふ】 歌^カ 謠^{エウ} 謳^{オウ}

歌(聲を長くし、節をつけてうたふ)。謠(世間一般にうたふ)。謳(鼻歌をうたふ)。

【うち】 中^{チュウ} 内^{ナイ} 裏^リ

中(まんなか)。内(外の反対)。裏(表の反対)。

【うつ】 撃^{グキ} 打^ダ 拍^{パク} 毆^{オウ} 討^{タク} 伐^{バツ} 征^{セイ} 搏^{ハク} 撲^{ボク}

撃(強くうつ)。打(うちあつ)。拍(掌にて軽くうつ)。毆(杖にて人をたたく)。討(罪あるをうつ)。伐(上より下の罪をこめうつ)。搏(手に力を入れてうつ)。撲(軽くほこく)。搏(こめうつ)。

【うつす】 移^イ 遷^{セン} 徒^シ 寫^{シヤ} 膽^{トウ}

移(處をかへうつす)。遷(よき方にうつす)。徒(物をさけて立ちのく)。寫(書きうつす)。膽(書きさる)。

【うばふ】 奪^{ダツ} 篡^{サン} 褻^{チヤク}

奪(與の反対、引きさる)。篡(下より上のものをさる)。褻(はざさる)。

【うみ】 海^{カイ} 洋^{ヤウ}

海(水のみからみある處をいふ)。洋(はてしもなく廣き海)。

【うらむ】 恨^{コン} 怨^{エン}

恨(残念に思ふ事)。怨(恩の反対、人をあだます)。

【うるほふ】 濕^{シツ} 潤^{ジュン} 濡^{ジュ} 霑^{テン}

濕(乾の反対、しめる)。潤(水分を含む事)。濡(水のかゝりてしつこりする)。霑(物を總體しめらす事)。

【うれふ】 憂^{ウイ} 愁^{シウ} 患^{クワン} 恤^{ジユツ}

憂(心配する)。愁(思ふ事あり心のうかぬ事)。患(難義なる事、わづらふ事)。恤(ふびんに思ふ)。

【はらぶ】 撰^{セン} 選^{セン} 擇^{タク}

撰(はらび作る)。選(のき出す事)。擇(善惡をわり分く)。

【ねくる】 送^{ソウ} 贈^{ゾウ} 遺^イ 餞^{セン}

送(行くをおくる)。贈(人に物を與ふ)。遺(物品を置き來る意)。餞(はなむけをおくる)。

【ねく】 置^チ 措^ソ

置(据ゑおく事)。措(手をはなしておく事)。

【ねこす】 起^キ 興^{キョウ}

起(臥したるものを立たす)。興(さかんにす)。

【ねごる】 奢^{シヤ} 侈^チ 驕^{ケウ} 傲^{オウ}

奢(儉の反對、華美を好む)。侈(約の反對、張大にする事)。驕(高ぶる)。傲(人を輕んずる事)。

【たす】 推 押 壓

推(おしやる、おしすすむる事)。押(上よりおしつける事)。壓(おしすくむ)。

【たろる】 恐 畏 懼 怖 惶

恐(あやぶみおそる)。畏(はばかりおそる)。懼(びく／＼とおそる)。怖(驚きおそる)。惶(おそれあわつる)。

【たつ】 落 墮 墜 零

落(上よりおつ)。墮(おちくづれる)。墜(落ちこむ)。零(散りおつ)。

【たざる】 跳 踊 躍

跳(一とびにさびあがる)。踊(小おどりする)。躍(さびこゆ)。

【たどろく】 驚 駭 愕

驚(びつくりする事)。駭(おどろきたつ)。愕(おどろきあわつ)。

【たふ】 追 逐

追(あとよりおひかく)。逐(おひはらふ)。

【たはいなり】 大 巨 洪 浩 碩 宏 鴻 偉

大(大小おほいなり)。巨(細の反對、ふとさき事)。洪(盛大の意)。浩(盛大流行のかたち)。碩(肥大)。宏(廣大)。鴻(仰山なる事)。偉(きばだちて見ゆる事)。

【たほふ】 覆 蔽 掩 蓋 庇

覆(上よりかぶせかく)。蔽(おほひかくす)。掩(ふさぎかくす)。蓋(ふたをする)。庇(おほひ、おほふ)。

【たもふ】 思 念 想 惟 憶 懷 顧

思(氣をつけ工夫する)。念(常に思ひて忘れぬ事)。想(思ひうかぶ)。惟(唯一筋に思ふ)。憶(思ひ出す)。懷(心をこめて思ふ)。

【たもむく】 趣 赴 趨

趣(一方に此のむく事)。赴(ある場所に行く事)。趨(はしりゆく)。

【たよぐ】 泳 游

泳(水底をくぐる)。游(水上をおよぎ渡る)。

【たろか】 愚 癡 魯

愚(智の反對、ばか)。癡(りこうでない)。魯(のろい)。

【をか】 岡 丘 陵

岡(小高き處)。丘(地の段をなして、上の平なるさいふ)。陵(つまさき上りに高くなれる上の平をいふ)。

【をこたる】 怠 惰 懈

怠(心ゆるみ張合のなき事)。惰(懈(勤の反對、精をださぬ事))。

【をかす】 犯^{ハム} 侵^{シム} 冒^{ハク}

犯(他の所へふみ入る)。侵(人知れずなかつ)。冒(被りなかつ)。

【をさむ】 收^{ウケ} 治^チ 修^{シウ} 理^リ 納^{ナフ} 斂^{レシ} 藏^{ザウ}

收(物を手に入る事)。治(落ちつくる)。修(いろくゝを悪をなほす)。理(筋道を立つる事)。納(外より来るものを、なごめ入る事)。斂(集めなごむる事)。藏(見ぬやうに、藏に入れる事)。

【をしふ】 教^{ケウ} 誨^{ケイ}

教(上より下にをしふ)。誨(さとし教ふ)。

【をしむ】 惜^{セキ} 吝^{リン} 吝^{シヨク}

惜(残りをしく思ふ)。吝(金銀物品をしむ)。吝(手に握りたるものを容易にはなごめ)。

【をはる】 終^{シウ} 卒^{ソツ} 畢^{ヒツ} 了^{リョウ} 竟^{キヤウ}

終始に對して物のほつ。卒(物の最終)。畢(物事のつきたる事)。了(らちあきてすむ事)。竟(極端まで至り止る事)。

かの部

【かうばし】 芳^{ホウ} 香^{カウ}

芳(香草のよなへ、轉じて人の名譽の意に用ふ)。香(かなり)。

【かがやく】 輝^キ 耀^{ユウ} 赫^{カク} 煥^{クワン}

輝(光の遠く照りわたるをいふ)。耀(日月星辰のかがやく事)。赫(明日に燃わたつ)。煥(光明の盛大なる事)。

【かかる】 罹^{ライ} 係^{ケイ} 掛^{ケイ} 懸^{ケン} 繫^{ケイ}

罹(あみにかゝる、病氣災難かゝる)。係(かゝりあふ)。掛(ひっかける)。懸(つりさげる)。繫(つなぎごむる)。

【かど】 欠^{ケツ} 缺^{ケツ} 闕^{ケツ} 虧^{ケイ}

欠(一定の數の不足する事)。缺(器物なごのかくる事)。闕(物にあきのある事)。虧(物のへり行く事)。

【かくる】 隱^{イン} 匿^{イタク} 竄^{ソウ} 藏^{ザウ} 潜^{セン}

隱(かくれて見ぬ事)。匿(人に知られぬやうにかくる)。藏(外より見ぬ)。潜(水底にかくる、ひそみかくる)。

【かげ】 蔭^{イン} 陰^{イン} 影^{エイ} 景^{ケイ}

蔭(日かげ又は草木のかげ)。陰(日かげ)。影(日光に照されたる物の形)。景(日光の物にあたりて反射せるをいふ)。

【かさ】 笠^{リツ} 傘^{サン}

笠(すげかさ)。傘(からかさ)。

【かさぬ】 重^{チュウ} 復^{フク} 累^{ルイ} 層^{ソウ}

重(最も廣く用ふ)。復(二重をいふ)。累(圓き物を重ねる事)。層(たん／＼にかさなりたる段)。

【かぞふ】 計^{ケイ} 算^{サン} 數^{スウ}

計(事物の見つもりを立つる事)。算(十算盤にあてゝ見る)。數(物の數量を數ふる事)。

【かたし】 堅^{ケン} 固^コ 硬^{カウ} 難^{ナン}

堅(金石の如く中までかたい事)。固(手がたく動かぬ事)。硬(こはくしてしんがある事)。難(なしにくき事)。

【かたち】

形ケイ 容ヨウ 貌ボウ 狀ジヤウ 態タイ 像ゾウ

形(動物以外の物のかたち)。容(人のなりぶり)。貌(顔面の事)。狀(有様さいふ意)。態(様子)。像(あるものに類似せるかたち)。

【かたはら】

傍ボウ 側ソバ

傍(もより)。側(そば)。

【かつ】

勝シヤク 克コク 捷セツ

勝(負に對す、勢すぐれたる事)。克(勝ち難きにかつ)。捷(戦にかつ)。

【かなしむ】

悲ヒ 哀アイ

悲(喜の反對、用法廣し)。哀(樂の反對心深く悲しむ)。

【かなふ】

適テキ 叶キヤク 稱ショウ

適(よろしきを得る)。叶(満足する事)。稱(つりあふ)。

【かは】

川セン 河カ

川(流れ水の事)。河(支那黄河の事、又之れに流れ入るかはの稱)。

【かはる】

變ヘン 代ダイ 換クワン 替タイ

變(念に變る事)。代(名代になる)。換(とりかふ)。替(物のすたりかはる事)。

【かへりみる】

顧コ 省セイ

顧(後にふりかへりみる)。省(氣をつけ見る。心中にかへり見る)。

【かへる】

歸キ 還クワン 反ハン 復フク 返ヘン 回クワイ

歸(かへりおちつく)。還(來りし道を立ちかへる)。反(ひっくりかへす意)。復(元にかへる)。返(二度元の道にかへる)。回(めぐりかへる)。

【かみ】

神シン 祇キ

神(天の神)。祇(地の神)。

【かゝる】

枯コ 潤ジュン 芟セ 刈カイ 芻カウ

枯(草木の立ちかれ)。潤(水のかはさたる事)。芟(かりすつる)。刈、芻(鎌にてかりとる)。

【かわく】

乾カン 渴カク 燥ソウ

乾(濕に對す。ひあがる)。渴(のどなどのかわく事)。燥(から〜になる事)。

【き】

木の部

木ボク 樹ジュ

木(草に對し木の總稱)。樹(植木の事)。

【きく】

聞ブン 聽テイ

聞(耳に入る)。聽(注意して聞く)。

【きず】

疵シ 創ソウ 傷シヤウ



疵(あざ)の如(ごと)く。創(きり)きずをいふ。傷(けが)が、ておひ。

【まばむ】 極(きょく) 究(きゅう) 窮(きゆう)

極(至り届きて先なきをいふ)。究(深くきはめつくす)。窮(行きつまり)。

【きゆ】 消(しょう) 滅(めつ) 熄(しょう) 湮(えん)

消(きわてなくなる)。滅(火のきゆる事より、物の見ゆる事)。熄(火のきゆる事)。湮(薄くなりて形の定かならぬ事)。

【きよし】 清(せい) 淨(じやう) 潔(けつ)

清(水のすむ事)。淨(きれいな事)。潔(甚だ清き事)。

【きる】 斬(ざん) 切(せつ) 截(せつ) 伐(ばつ) 裁(さい) 剪(せん)

斬(きりはなす事)。切(細かにきり刻む意)。截(物をたちきる)。伐(たぎる)。裁(衣類をたちきる、又正理によりて判断する)。剪(はさみきる)。

く の 部

【くさる】 朽(く) 腐(ふ)

朽(草木などの脆くほろくになる事)。腐(肉類果物などの食ふべからずなる事)。

【くだる】 下(か) 降(か)

下(真すぐ下る事)。降(登に對し、阪道などを斜に下る事)。

【くだく】 碎(さい) 摧(さい)

碎(石などを細かにする事)。摧(竹木などを、ひしきくだく)。

【くづる】 崩(ほう) 壞(くわい) 頽(たい)

崩(山などのぐわらくくづる事)。壞(壁などのくづれおつる)。頽(じりくづる事)。

【くに】 邦(ほう) 國(こく) 州(しゅう)

邦(大なる國の事)。國(小なる國の事)。州(國の中の小別)。

【くはし】 精(せい) 委(い)

精(すぐれて細き事)。委(つぶさにゆきわたる事)。

【くらし】 暗(あん) 闇(あん) 昏(こん) 味(み) 晦(かい)

暗、闇(おんぼりこくらき事)。昏(日暮)。味(うすぐらく分明ならぬ意)。晦(真くらの意)。

【くらふ】 食(しょく) 喫(きつ) 餐(さん)

食(物をくふ意)。喫(口中に入れてくむ)。餐(煮て熟するものを食ふ)。

【くるしむ】 苦(く) 困(こん) 窘(きん)

苦(にがし)。困(難儀をして、なやむ事)。窘(こまらす)。

【くれ】 晚(ばん) 暮(ぼ) 昏(こん)

晚(日の入りかゝれる時)。暮(日の入り果てたる時)。昏(日の入り果て、既にくらくなりたる時)。

けの部

【けがす】汚穢瀆

汚(濁りけがる)。穢(むさくろしき事)。瀆(人に無禮を加ふ)。

【けはし】險嶮阻峻

險、嶮(山の岩がごたごたしてはげしき事)。阻(通路なく行き難き意)。峻(山のきりたたるやうに、けはしき事)。

この部

【こたふ】應對答

應(先方の呼びかけに應ず)。對(一々事をわけてこたふ)。答(問に對して返答する)。

【こたふ】悉盡

悉(一つ一つ數へて、残す事なきをいふ)。盡(一まじめにして、残らすの意)。

【こどに】殊特異

殊(かけはなれて、ちがふ事)。特(こりわけて獨りする事)。異(彼れと此れとの違ひ)。

【こふ】請乞

請(望み求む)。乞(ねだり求む)。

【こゆ】越超踰

越(踏みこけて行く)。超(こびこゆ)。踰(ひとまたきにこゆ)。

【これ】此是之維惟斯

此(彼に對す、たしかにます)。是(非に對し、道理に對して用ふ)。之(上又は下にある事物の代名詞)。維、惟(言ひ出しに用ふ)。斯(この筋合、道理にこいふ意)。

【ころす】殺誅戮弑死

殺(命をころす)。誅(罪あるものを殺す)。戮(みせしめに殺す)。弑(主君又は父母を殺す)。死(自然に死ぬ)。

さの部

【さかひ】界境疆

界(四方のさかひ目の事)。境(しきりのうち)。疆(土手を設けたる界)。

【さかり】盛隆熾昌

盛(さかり最中の意)。隆(勢のはりたる事)。熾(火のもね上りたるが如く、勢強き事)。昌(美しくかまやきたる事)。

【さき】前先曩嚮

前(後に對す、多くまへ)。先(前に同じく少し意弱し)。曩(過去となりて久しき事)。

【さとし】聰敏慧

聰(耳のよくきこゆる事)。敏(鈍の反對、すばやし)。慧(細智のかしこき事)。

【ささる】覺悟曉

覺(さつぱりき、開けささる)。悟(道の開けたる事)。曉(明にささる)。

【さる】 去 距 違

去(來の反對、其場所を立退く)。距(此と彼は隔る事)。違(行きちがひはなる事)。

【さわど】 騒 課 噪 躁 擾

騒(さわぎみだる)。課(やかましく、わめきさわぐ)。噪(口々にやかましき事)。擾(みだれて順序立たぬ事)。

しの部

【しきりに】 頻 連 荐

頻(たび)。連(打ちつゞく事)。荐(いやが上に重りつゞく)。

【したがふ】 從 順 隨 遵 循

從(つきしたがふ)。順(さかからはぬ事)。隨(あまにつきしたがふ)。遵、循(したがひ奉ずる事)。

【しづか】 靜 閑 徐

靜(動かすさわがぬ事)。閑(ひまがある事)。徐(そろく)。

【しぬ】 死 崩 薨 卒 歿 夭

死(生物の命を失ひたる事)。崩(天子、皇后、皇太后の死)。薨(皇族並に三位以上の人の死)。卒(人臣五位以上の人の死)。歿(人の死して世にあらざるをいふ)。夭(年若くして死するをいふ)。

【しりぞく】 退 卻(却)斥

退(後へ引去る)。卻(後にさく)。斥(はらひのける)。

【しる】 智 識

智(心に事物の本性をしる)。識(見覺は、聞き覺は)。

すの部

【すくふ】 救 援 濟

救(すくひたすく事)。援(加勢する)。濟(渡りかぬるをすくふ)。

【すくなし】 少 尠 鮮 寡

少(多の反對、數の多からぬ事)。尠、鮮(極めて少き事)。寡(衆の反對)。

【すすむ】 進 勸 奨 薦 漸

進(「退」に對す、前方に出る)。勸(人にかくせよと、ききつくる事)。奨(ほめ勵ます)。薦(神に物を奉る事、人才を推す事)。漸(段々すすむ)。

【すく】 捨 棄 捐

捨(うちすつる)。棄(用にたすとしてすつる事)。捐(すて、外へやる)。

【すでに】 既 已 業

既(全く終りたる事)。已(今終りたる事)。業(さうなるからは)。

【すなはち】 則 卽 乃

則(ならば)。卽(さりもなはず)。乃(そこで)。

【すむ】住ス 棲ス 栖ス
住(常の住居)。棲、栖(假りに住む)。

せの部

【せばし】狭セ 隘セ 褊セ 窄セ
狭(尤も廣く用ひらる)。隘(間隔のせばき事)。褊(衣服の身幅狭き事)。窄(内の狭き事)。

【せむ】攻セ 責セ 譴セ
攻(武を用ひて攻むる事)。責(罪を責めとがむるなり)。譴(言葉にてしかりとがむる事)。

ろの部

【ろしる】誹ロ 譏ロ 謗ロ 毀ロ
誹、譏(人の短所、缺點をこがめて、そしる事)。謗(かげにてそしる)。毀(人の名譽を損する事)。

【ろろぐ】注ロ 洒ロ 瀉ロ 澆ロ 灌ロ 溉ロ
注(つきこむ、ながしこむ)。洒(水をうつ)。瀉(ごつごつ一時にそそぐ)。澆(とげしりかゝる意)。灌、溉(水を田畑にながしひく事)。

【ろなふ】具ロ 備ロ 供ロ
具(缺けなくとよなふ)。備(物の数々を、のこらず支度する事)。供(そなへものをする)。

【ろむく】叛ロ 背ロ 反ロ 負ロ
叛(うらがへる)。背(人を背にして、ふりすつる)。反(ひっくりかへる)。負(恩に違ひ、徳を忘るゝ事)。

たの部

【たくはふ】貯タ 蓄タ 儲タ
貯(じつと、藏したくはふ)。蓄(少しづつ、積み置く)。儲(他日の無き時の用意にする)。

【たすく】輔タ 助タ 佐タ 佑タ 扶タ
輔(互に相たすくる事)。助(力を添ふる事)。佐(下より、傍にありてたすく)。佑(上よりたすくる事)。扶(かゝへたすくる事)。

【ただす】正タ 規タ 訂タ 匡タ 質タ
正(邪に對し、ゆがめるをたす)。規(法によりてたす)。訂(文字のあやまりをたす)。匡(救ひたす事)。質(疑ひをこふ事)。

【たたく】叩タ 敲タ
叩(うちたたく)。敲(横よりうつ事)。

【たつ】立タ 起タ 建タ
立(しかまたつ)。起(身をおこしたつ)。建(組みたつる意)。

【たつ】断タ 絶タ 截タ 裁タ
断(物を二つに、こりになつ事)。絶(きれて後のなき事)。截(切り分くる意)。裁(衣服をたつ事、又物事を宜しくする意)。

【たてまつる】上タ 奉タ 献タ 呈タ

上(上に進む)。奉(手に高くあげ、献上する事)。獻(貴人に物をあぐ)。呈(進上する事)。

【たどひ】 假令(カレイ) 假(レイ) 譬(ヒ) 喩(ユ)

假令(假りに定める意)。假(實例を示す)。譬(類似せるものを假りに作り設けて話す)。喩(諫めさせす)。

【たのしむ】 樂(ラク) 娛(ゴ) 嬉(キ)

樂(苦の反對、心面白し)。娛(憂ひを散じなくさむ)。嬉(たはむれあそぶ)。

【たふ】 堪(カン) 耐(カイ) 任(ニン) 勝(ショウ)

堪(こらへ忍ぶ)。耐(忍びうる事、もちこたふ)。任(我力量の續く事)。勝(争ひて勝つ事)。

【たふどし】 尊(ソン) 貴(キ) 崇(ショウ) 尙(シヤウ)

尊(あがめたつゝぶ)。貴(賤の反對、位の高き事。又物の價の高きにもいふ)。崇(あがめうやまう)。尙(大切にす、上品なりとする事)。

【たふる】 倒(カウ) 仆(フツ) 斃(ヘイ) 殞(エイ) 顛(テン)

倒(仰のけざまにたふる事)。仆(へつたりと横になる)。斃、殞(たふれ死ぬ事)。顛(上よりさかさまに、たふれ落つる意)。

【たまたま】 適(テキ) 偶(ゴウ) 會(クワイ)

適(ちやうど)。偶(ふいご)會(思はずあふ)。

ちの部

【ちかふ】 誓(サイ) 盟(メイ)

【ちまた】 街(ガイ) 巷(コウ) 衢(ク)

街(眞直の大道)。巷(曲れる小道)。衢(辻路)

つの部

【つかさどる】 司(シ) 掌(シヤウ) 主(シュ) 宰(サイ)

司(長となりて支配す)。掌(持前の事をつかさどる)。主(おのれ主となりて事を扱ふ)。宰(人の頭にたちて、差圖する事)。

【つかふ】 仕(シ) 使(シ) 事(ジ)

仕(奉公する事)。使(目下を指揮してつかふ事)。事(目上につかふる事)。

【つく】 突(ツツ) 衝(シヨウ) 撞(ツウ) 搗(タウ)

突(ふいに、つきあたる)。衝(正面につきあつる事)。撞(うちあつる事)。搗(杵にてつく事)。

【つく】 就(シュウ) 著(チャク) 即(ソク) 付(フ) 附(フ)

就(従ひつく)。著(ひたさつく事)。即(たぐちに、それになる)。付(授けわたす)。附(つき従ふ)。

【つぐ】 繼(ケイ) 續(ゾク) 嗣(シ) 襲(シヤウ) 次(ジ) 接(セツ)

繼(物をあそをつぐ)。續(つぎつぐ事)。嗣(よつぎ)。襲(元よりあるものを、重ねつぐ)。次(順序次第をつぎ行く事)。接(二物をつぎあはす)。

【つくす】 盡(ジン) 竭(ケツ) 悉(シツ) 殲(セン) 彈(タン)

盡(すつかり、無くなる)。竭(よわりつく事)。悉(一つも残らぬ事)。殲、殲(人を皆殺す事)。

【つくる】 作 造 製

作(物をこしらへおこす事)。造(物をこしらへ立てる)。製(物を工夫しつくり出す事)。

【つつしむ】 謹 慎 肅

謹(二筋に心をいれる)。慎(内心に用心する事)。肅(うやうやしくつつしむ)。

【つとむ】 勤 勉 務 力

勤(惰の反対、真く精を出す)。勉(力を出してつとむ)。務(力を専らにする事)。力(力を入れて精を出す)。

【つねに】 常 恆 毎

常(常住にしてかはらぬ事)。恆(永久にかはらぬ事)。毎(何時も其のたびに)。

【つひに】 終 遂 竟 卒

終(始めに對す。とうく)。遂(しこげる事)。竟(始めより終りまで、ひつくるめたる語)。卒(最終といふ意)。

【つまびらか】 詳 審

詳(略の反対、一々明かにしらぶる事)。審(誤りなきよう、確に見きはむる事)。

【つらなる】 連 聯 列 陳

連、聯(次々につまきたるをいふ)。列(ならびつらなる事)。陳(順序を立て、ならべしき事)。

部の

【とく】 説 解 釋 溶 熔

説(わけを云ひきかす)。解(わかるやうにする)。釋(下地のすがた、なきやうにする)。溶(水にまぐる事)。熔(火にまぐる事)。

【ところ】 所 處

所(ほんやりと、廣く場所をさす)。處(たしかに、すわるところをさす)。

【とづ】 閉 鎖 緘 杜

閉(門をこづ)。鎖(錠をおろす)。緘(こち合す)。杜(こちふさぐ)。

【とこなぶ】 齊 整 調

齊(一樣にそろふる事)。整(きまりをよくする)。調(こり合せをよくする)。

【とどむ】 留 止 駐 停

留(ゆるりし止る)。止(ふみこまる)。駐(引きこまむる)。停(中途にて、暫くこままる)。

【とぶ】 問 訪 訊 詢

問(物事を問ひたづねる)。訪(往きて人をおとづる)。訊(とひたす)。詢(とひはかる、相談)。

【とほる】 通 徹 透

通(とほりぬくる事)。徹(底までとほりぬける)。透(すきとほる)。

【とも】 朋 友

朋(同じ師に就きて學べる事)。友(同心の事)。

【とも】 共(共に) 俱(共に) 偕(共に)

共(彼此の別なしに、共同の意)。俱(一處にうち揃ふ、みな意)。

【とらふ】 捕(とらふ) 捉(とらふ) 囚(とらふ)

捕(逃亡者を、追ひかけてとらふ)。捉(手ごりにする事)。囚(召しこる事)。

【とる】 取(とる) 執(とる) 探(とる) 操(とる) 把(とる)

取(とりて我ものにする事)。執(固くこる事。離さぬ事)。探(探ひこる)。操(正しくとりまもる)。把(にぎりこる事)。

【ながし】 長(ながし) 永(ながし) 部

長(短に對す。物を比較して長き事)。永(はてしなく、ながき事)。

【なぐ】 鳴(なぐ) 啼(なぐ) 泣(なぐ) 哭(なぐ)

鳴(鳥獸のなく事、和鳴悲鳴何れにも用ふ)。啼(聲ふり立てなく)。泣(涙を流し、聲立てずしてなく)。哭(涙を流し、聲たてなく)。

【なげく】 嘆(なげく) 嗟(なげく) 慨(なげく)

嘆(心に感ずる事)。嗟(聲を發してなげく事)。慨(口惜しがりてなげく事)。

【なす】 爲(なす) 成(なす) 作(なす)

爲(何事かをする事)。成(しあがる事)。作(物事をはじむる意)。

【なほ】 猶(なほ) 尙(なほ) 仍(なほ)

猶(やはり)。尙(其上に、まだ)。仍(いつも變らずに)。

【なみ】 波(なみ) 浪(なみ) 濤(なみ) 瀾(なみ)

波(なみの總稱)。浪(石に激して、荒立つ波)。濤(海中に、ゆるくうれる大なみ)。瀾(大なみ、せほしくうれる事)。

【ならふ】 習(ならふ) 效(ならふ) 倣(ならふ) 倣(ならふ)

習(幾度も練習する事)。效、倣、倣(かたどりならふ、まねをする事)。

【なる】 馴(なる) 狎(なる) 狃(なる) 慣(なる)

馴(鳥獸などの。人に馴れなつく事)。狎(心やすくなる事)。狃(なれてつけあがる事)。慣(幾度も出逢ひて、なる事)。

【なんぢ】 女(なんぢ) 汝(なんぢ) 爾(なんぢ) 卿(なんぢ)

女、汝(賤者を呼ぶ時に用ふ)。爾(汝より少しく丁寧)。卿(上々の者より下々の者にいふ辭、てまへ)。

【に】 北(に) 逃(に) 遁(に) 亡(に) 脱(に)

北(敵に後を見する事)。逃(にげいづる事)。遁(にげかくる事)。亡(にげうする事)。脱(ぬけて、にげいづる事)。

【にはかに】 俄(にはかに) 遽(にはかに) 暴(にはかに) 驟(にはかに)

俄(急に突然に)。遽(あわたましき事)。暴(思ひがけなく)。驟(物の急に來る事)。

【にる】煮 烹 煎

煮(たきわかす)。烹(調味してにる)。煎(につむる事)。

【にる】似 肖

似(類似する事)。肖(形體の、によりたる事)。

ぬ の 部

【ぬく】抜 抽 擢 脱 挺

抜(ぬき出す)。抽(引き出す)。擢(特に見出て、ぬき出す)。脱(ぬけてはだかになる)。挺(自ら先きへぬけ出づ)。

【ぬすむ】盗 偷 竊 賊

盗(人のものを己れの物にする)。偷(かすめこる)。竊(こつそりこる)。賊(人をおびやかす)。

ね の 部

【ねむる】睡 眠 寝 寐 瞑

睡(かねむりする事)。眠(目をこちてねむる事)。寝(臥床につく)。寐(かりね)。瞑(唯目を閉づる事)。

の の 部

【のこす】残 遺 貽

残(あましのこす)。遺(後に留めおく)。貽(子孫にのこす)。

【のぞむ】望 臨 蒞

望(仰ぎのぞむ)。臨(高きより低きを見下す)。蒞(顔出しする事)。

【のぶ】述 陳 宣 演

述(のべあらはす)。陳(並べ立て、いふ)。宣(あまれく知らす)。演(ひきのべて廣むる事)。

【のぶ】伸 延 暢 展

伸(のびて直なる事)。延(引きのばして長くする事)。暢(のびくとして居る事)。展(開きのぶる事)。

【のぼる】上 升 昇 登 騰 陞

上(下より上にあがる)。升、昇(すすみのぼる)。登(山など斜にのぼる)。騰(おどりあがる)。陞(一段一段とのぼる、官ののぼるに用ふ)。

【のむ】飲 呑

飲(湯水なごむ)。呑(物をかますにのむ)。

は の 部

【はかる】計 謀 圖 量 測 度 料 算 議

計(數をはかる)。謀(人と相談す)。圖(みつもり、思慮す)。量(分量を見つもの)。測(水の深さ、地の廣さをはかる)。度(尺度にてはかる)。料(見識を以てはかる事)。算(物の多少を積り立つる事)。議(事のよろしさを評定する事)。

【はく】吐 嘔 噴

吐(物をはき出す)。嘔(あづき出す事)。噴(勢よく出す)。

【はじむ】 初ハジメ 始ハジメ 創ハジメ 首ハジメ 甫ハジメ

初(最初の事)。始(終に對す、主として事の起點)。創(新にはじむる事)。首(一番がけ)。甫(大きくなるはじめ)。

【はしる】 走ハシル 奔ハシル 趨ハシル 馳ハシル

走(一筋にはしる)。奔(無意味にかけたす)。趨(小足に早く歩む)。馳(はせて急に行く事)。

【はぢ】 恥ハヂ 辱ハヂ 羞ハヂ 愧ハヂ 慚ハヂ

恥(心にやましく感ずる)。辱(外聞あしきないふ)。羞(きまりがわるい)。愧(見苦しきなはづ)。慚(不正なるなはづ、面目を失ふ)。

【はやし】 早ハヤシ 速ハヤシ 捷ハヤシ 疾ハヤシ 夙ハヤシ

早(晩の反對)。速(遲に對す)。捷(すばやき事)。疾(足ばやき事)。夙(無上にはやい事)。

【はる】 張ハル 貼ハル

張(引きはる、廣ぐる事)。貼(はりつける)。

ひの部

【ひく】 引ヒク 曳ヒク 延ヒク 挽ヒク 牽ヒク

引(弓を引くより轉じて用法廣し)。曳(物をひきする)。延(此方へ招き寄する意)。挽(力をこめてひく事)。牽(綱をつけて、牛馬などをひく事)。

【ひくし】 卑ヒクシ 低ヒクシ

卑(尊又は高の反對)。低(高に對す)。

【ひろかに】 私ヒロカニ 竊ヒロカニ 密ヒロカニ 潛ヒロカニ 陰ヒロカニ

私(公の反對、ないしやう)。竊(人目をぬすむ、しのびやか)。密(ひそひそ、こつそり)。潛(水にひそむ、又深くかくる事)。陰(陽に對す、かげに於ける事)。

【ひとし】 均ヒトシ 等ヒトシ 齊ヒトシ

均(高低なく平なる事)。等(等級分量ひとしき事)。齊(ひとのひそる事)。

【ひらく】 開ヒラク 拓ヒラク 披ヒラク 排ヒラク 啓ヒラク 關ヒラク

開(閉ぢたるを開く)。拓(未開地をひらく)。披(兩方に分け開く)。排(手にて推しやる)。啓(人の知らぬ事を教へ導く)。關(左右にひらく)。

【ひろし】 廣ヒロシ 博ヒロシ 弘ヒロシ 汎ヒロシ 濶ヒロシ 寬ヒロシ 宏ヒロシ

廣(狭の反對、うちひらけて見ゆ)。博(幅の廣き事)。弘(大きく廣ぐる事)。汎(はつこひろき事)。濶(兩者の間のひろきないふ)。寬(ゆつたりと餘裕ある事)。宏(中の廣く大なる事)。

ふの部

【ふす】 臥フス 伏フス 俯フス

臥(起に對す、横になる事)。伏(うつぶしになる)。俯(仰の反對、頭を下げてうつむく事)。

【ふせぐ】 防フセグ 禦フセグ 禦フセグ 拒フセグ

防(あらかじめ用心する事)。禦(さしあたりてふせぐ)。拒(よせつけぬ事)。

【ふむ】履 踐 踏 踏

履(ふみ行く)。踐(ふまへてなる事)。踏(足拍子をこり、ふみつける)。踏(ふみつける)。

【ふるし】古 舊 故

古(今に對す、むかしの事)。舊(新に對す、多く年月を経たる事)。故(新に對す、古き以前の事)。

【ふるふ】振 奮 震 揮 戰

振(はたくとふるふ事)。奮(勇みふるふ事)。震(物を動かしふるふ事)。揮(手に持たてふるふ)。戰(がたくと身ふるひする事)。

への部

【へだつ】隔 阻

隔(間に物を入れる事)。阻(邪魔になる)。

はの部

【はしつね】縦 恣 擅 肆 放

縦(行きなり次第)。恣(悪事を氣儘にする事)。擅(一人にて専らにする事)。肆(思ふ存分にする事)。放(人の束縛をうけぬ事)。

【はぼ】略 粗 約

略(おぼそ)。粗(精に對す、ざつと)。約(おぼそ)。

【ほむ】賞 褒 譽 稱 美

賞(罰に對す)。褒(貶に對す、ほめす)。譽(よくいひあらはす、ほめする位にほめる)。稱(もてはやす事)。美(やさしくほむ)。

【ほゆ】吠 吼 咆

吠(犬のなく聲をいふ、又一しきりうなづく)。吼(勢強く聲をあげる)。咆(はげしくほゆる事)。

【ほろぶ】亡 滅 喪

亡(あるもの、なくなりたる事)。滅(遂に消えうする事)。喪(滅亡し果つるをいふ)。

まの部

【まこと】誠 信 眞 實 洵

誠(正直なる事)。信(言行の相違なき事)。眞(間違ひなき事)。實(しつかりみのいる事、虚の反對)。洵(信と同じく歎美の意)。

【まさな】正 當 方 將

正(まさしく)。當(當然かくあるべき筈)。方(其の時に當りて)。將(今少し時をへばの意)。

【まさる】勝 賢

優(ぬけてたる事)。勝(競ひてかつ事)。賢(かしこくてすぐる)。

【まじはる】交 雜 參 錯

交(人と往來する)。雜(物の入り亂る事)。參(人數の中にあづかりくははる)。錯(入りちがひまじはる)。

【また】 又 亦 復

又(其の上また)。亦(もまた)。復(再びかきね)。

【またし】 完 全

完(きずの無き事)。全(残る所なき意)。

【まつり】 祭 祀 祠

祭(時を定めてまつる事)。祀(神さしてあがめる)。祠(社を建て、其中に祭る)。

【まもる】 守 護 衛 戍

守(見張る)。護(大切にふせまもる)。衛(取りまきまもる)。戍(番をして敵を防ぐ事)。

【まをす】 申 白 奏 啓

申(のへ告ぐ)。白(あきらかにのぶ)。奏(臣下の天子に申上ぐる事)。啓(口を開きて申述べ言上の意)。

みの部

【みだりに】 妄 漫 猥 濫

妄(かるくしく、偽りの意)。漫(明ならぬ事、あてのなき事)。猥(なれくしする)。濫(むやみ)。

【みち】 道 路 途 徑

道(天下の大道筋)。路(大小を通じていふ)。途(小道の事)。徑(細みちの事)。

【みづから】 自 躬 親

自(自身)。躬(身にかけてなす)。親(したしく手を下す)。

【みる】 見 看 視 観 覽 瞻 瞰 眺 瞥

見(目にふる)。看(見守る)。視(心をこめて見る)。観(注意して見る)。覽(一通り目を通す)。瞻(仰ぎ見る)。瞰(俯して見る)。眺(遠方をのぞみみる)。瞥(ちらと見る事)。

むの部

【むかふ】 向 迎 邀

向(まむきになる)。迎(来るを出迎ふ)。邀(不意を待ちうくる事)。

【むくゆ】 報 酬

報(報へられたるし)。酬(受けたるをかへす)。

めの部

【めぐる】 回 巡 周 運 旋 環 繞

回(ぐるりめぐる事)。巡(視めぐる)。周(普くめぐる)。運(めぐり動く)。旋(きりくまはる事)。環(まわりかこむ)。繞(ま

もの部

【もつども】 最 尤

最(数中の第一)。尤(すぐれて異なるにいふ)。

【もと】元ゲン本ホン舊キウ原ゲン素ソ固コ

元(物事のはじまり)。本(末に對す)。舊(まへかた、むかし)。原(水のみなもと、事物のはじめを尋ねていふ)。素(とだいでした)。固(初めより、常に)。

【もとむ】求モトム索ソク需ジユ

求(はしがりもとむ)。索(さがしもとむ)。需(もちもとむ)。

【もの】者モノ物モノ

者(人をさしていふ)。物(形あるものをさしていふ)。

やの部

【やすし】安ヤスシ寧テイ康カウ易イ泰タイ

安(あぶな氣なき事)。寧(しつこりなき事)。康(落付き樂しむ)。易(たやすき事)。泰(落付き寛大なる事)。

【やぶる】敗ヤブ破ハ壞クワイ

敗(次第に破る事)。破(くたく、こはれ破る事)。壞(くづれこぼる事)。

【やまひ】疾シツ病ベイ疫エキ痲マ痲マ

疾(軽きやまひ)。病(憂ひの事にて、大病)。疫(傳染病)。痲(水びくやまひ)。痲(持病)。

【ゆく】行ユク往ワウ之シ逝セイ適テイ

行(歩みゆく)。往(先きへゆく)。之(内を出て、目的地へ行く)。逝(すつと行き再び歸らぬ)。適(一筋にゆく事)。

【ゆたか】豊ユタカ饒ニウ裕ユウ寛クワン優ユウ

豊(物の多大なる事)。饒(多くしてみちたる)。裕(ゆつたりとする事)。寛(心のくつろぎてひろきをいふ)。優(力のまさりて、あまりある事)。

【ゆるす】赦シヤク許キョ免エン宥ユウ允イン釋シヤク聽テイ

赦(罪をゆるす)。許(それにてよろしとゆるす)。免(まわゆる)。宥(なだむ、見のがす)。允(よしと認めてゆるす)。釋(とぎゆるす)。聽(望みをいれる)。

よの部

【よし】善ゼン良リヤウ吉キチ佳カ好コウ嘉カ淑シユク

善(惡に對し、並にすぐれてよし)。良(ととのひてよき事)。吉(めでたき事)。佳(好なり、美なり)。好(形のよきなり)。嘉(善樂の意)。淑(善和なる意、婦人の徳にいふ)。

【よむ】讀ヨム誦シヨウ諷フウ咏エイ

讀(目にて見、口にてよなふ)。誦(そらよみをする)。諷(ふしをつけてうたふ)。咏(唱ふ)。

【よる】因イン寄キ依イ賴ライ憑ヒョウ據キョ倚イ緣エン

因(原因にたよる)。寄(たよる事)。依(力きたのむ)。賴(たのみとする)。憑(もたれよる事)。據(よりどころとする)。倚(ものによりかゝる)。緣(つきて離れぬ事)。

【よろこぶ】喜キ悅エツ歡クワン欣シン怡イ懌エキ

喜物を見て、うれしがる。悦(心中に満足して、よろこぶ)。歡(よろこび樂しみて、笑ひ語る意)。欣(よろこび氣の淨く事)。怡(やはらぎよるこぶ、にこ〜)。憚(しつこりさ、心にしみて長くよろこぶ)。

わの部

【わかし】 若(ジヤク) 少(シヤウ) 弱(ジヤク) 壯(チヤウ) 天(テン) 嫩(ニン)

若(此をワカシといふは誤りなり)。少(年の少き事)。弱(男子の二十歳に達せる稱)。壯(男子の三十歳に達せる稱)。天(未だ壯年に達せざるをいふ)。嫩(樹木などのわかき事)。

【わかつ】 分(ブン) 別(ベツ) 訣(ケツ) 判(ハン) 願(ガン)

分(合の反對、分配又は二分する事)。別(區別を立つる事)。訣(生別れ、又死別れの意)。判(判断する事)。願(わかち與ふる事)。

【わする】 忘(ワウ) 遺(イ)

忘(記憶を失ふ事)。遺(思はず心に取落す事)。

【わたる】 渡(ト) 濟(ジ) 涉(セツ) 互(ゴ)

渡(水をわたる)。濟(難儀なる所をわたる)。涉(淺き水を、徒歩にてわたる)。互(此方より彼方に、ミマきわたる事)。

【わづか】 僅(キン) 纒(マユ)

僅(ちつこばかり)。纒(やうやく)。

【わらふ】 笑(ウケ) 晒(シニ) 嗤(シ) 咲(サキ) 莞(ワウ)

笑(なかしき事ある時、口を開く事)。晒(にやりまわらふ)。嗤(あざけりあらふ事)。咲(苦のひらく事)。莞(少しくわらふ)。

ほゝゑむ事。

【われ】 我(ガ) 吾(ゴ) 余(ヨ) 予(ヨ)

我(彼に對していふ、自身)。吾(手前)。余、予(吾に同じく、稍謙遜の意あり)。

十、誤り易き熟語の讀方及難訓解

【あ】

所(ショ) 有(ユ) 惜(セキ)

愛(アイ) 積(セキ)

安(アン) 孫(ソン)

我(ガ) 子(コ)

安(アン) 院(イン)

菊(キク) 石(シヤク)

一(イツ) 緒(シュ)

員(イン) 辨(ベン)

斑(ハン) 鳩(ク) 説(セツ)

遊(ユ) 哉(カ) 不(フ) 知(チ)

所(ショ) 在(ザイ)

歎(ト) 乃(ノウ)

穴(ケツ) 賢(ケン)

麻(マ) 生(セイ)

愛(アイ) 發(ハツ)

石(シヤク) 決(ケツ)

五(イツ) 十(ジュウ) 集(シュツ)

道(ドウ) 説(セツ)

慰(ヰ) 藉(セツ)

乙(イツ) 夜(ヤ) 異(イツ) 口(コ) 同(ドウ) 音(オン)

飛(トビ) 鳥(トウ)

安(アン) 穩(ウン)

穴(ケツ) 勝(カウ)

且(ジュ) 來(ライ)

山(サン) 女(ニョ)

周(シュウ) 章(チャウ)

海(カイ) 豚(トウ)

不(フ) 入(ニツ)

因(イン) 緣(エン)

潮(ウシ) 來(ライ) 音(オン) 容(ヨウ)

青(アヲ) 天(テン) 白(ハク) 日(ニツ)

間(カン) 柄(ヘイ)

正(テイ) 月(ゲツ) 一(イツ) 日(ニツ)

安(アン) 勅(トク)

小(コ) 豆(トウ)

新(シン) 玉(ギョク)

石(シヤク) 原(ゲン)

幾(キ) 何(ナニ) 糸(イト) 魚(イサ)

一(イツ) 保(ホウ) 品(ヒン)

指(シ) 遊(ユ) 日(ニツ) 樑(リヤウ)

外(ガイ) 本(ホン) 何(ナニ) 墓(ボ)

角(カウ) 曇(トウ) 原(ゲン) 宮(キウ) 房(フウ)

阿(ア) 房(フウ)

行(コウ) 飯(ハン)

粟(ム) 原(ゲン)

安(アン) 曇(トウ)

總(ソウ) 角(カウ)

淺(セン) 墓(ボ)

若(ニャク) 何(ナニ) 樑(リヤウ) 本(ホン)

日(ニツ) 外(ガイ) 宿(シュク) 治(チ)

遊(ユ) 何(ナニ) 敦(トウ) 若(ニャク)

鹿(ロク) 圍(イ) 箇(コ) 增(ゾウ)

阿(ア) 食(シヤク) 庭(テイ) 脚(キョウ) 晴(セイ)

天(テン) 晴(セイ)

行(コウ) 脚(キョウ)

饗(キヤウ) 庭(テイ)

安(アン) 食(シヤク)

四(シ) 阿(ア)

荒(コウ) 增(ゾウ)

若(ニャク) 箇(コ)

敦(トウ) 圍(イ)

何(ナニ) 鹿(ロク)

以(イ) 心(シン) 傳(デン) 心(シン)

【こ】 【け】 【く】 【き】

荷^カ 金^{カネ} 今^{イマ} 解^{トク} 月^{ツキ} 孝^{コウ} 水^{ミヅ} 苦^ク 三^{サン}寸^{スン} 七^{シチ}寸^{スン} 仰^{オウ} 間^マ 春^{ハル} 鶴^{ツル} 談^{タン}
且^カ 神^{カミ} 昔^{キョク} 由^ユ 卿^{ケイ} 子^コ 母^ボ 患^ヱ 所^{ショ} 分^{ブン} し 説^{セツ} 日^{ニチ} 喉^{ノド} 山^{ヤマ}

河^カ 金^{カネ} 強^{カウ} 解^{トク} 源^{ゲン} 甄^{ケン} 九^ク 屈^{クツ} 苦^ク 仰^{オウ} 今^{イマ} 若^{ニホ} 各^{カク} 合^{カフ}
堀^カ 色^{シキ} 慾^{ヨク} 脱^{トク} 翁^{ウウ} 別^{ベツ} 山^{サン} 八^{ハチ} 託^{トク} 道^{ドウ} 山^{サン} 古^コ 且^カ 務^ム 縦^{シヨウ}

小^コ 權^{ケン} 黒^{クワク} 絢^{ケン} 家^カ 劍^{ケン} 俱^ク 十^{ジュウ} 日^{ニチ} 象^{ゾウ} 旗^キ 頑^{ガン} 利^リ 山^{サン}
柳^{リウ} 帥^{シュイ} 白^{ハク} 爛^{ラン} 來^{ライ} 突^{ツク} 樂^{ラク} 八^{ハチ} 下^カ 部^ブ 瀉^{シャ} 轅^{エン} 丈^{ジョウ} 光^{クワウ} 上^{ジョウ}
津^{ジン} 部^ブ 濱^{ヒン} 部^ブ 瀉^{シャ} 轅^{エン} 丈^{ジョウ} 光^{クワウ} 依^イ

困^{クワン} 權^{ケン} 五^ゴ 眩^{ケン} 劍^{ケン} 栗^リ 公^{コウ} 神^{シン} 木^キ 巾^{キン} 神^{シン} 客^{カク} 垣^{ケン}
億^{イク} 化^カ 牛^ウ 暈^{ウン} 吞^{ツン} 田^{テン} 卿^{ケイ} 代^{ダイ} 全^{ゼン} 輜^シ 樂^{ラク} 觀^{カン} 内^{ナイ}

小^コ 勝^{ショウ} 言^{ゴン} 語^ゴ 道^{ドウ} 斷^{ダン} 外^{ガイ} 元^{ゲン} 善^{ゼン} 八^{ハチ} 十一^{ジュウイチ} 藏^{ゾウ} 氣^キ 可^カ 瓦^カ 印^{イン}
督^{トク} 間^{カン} 斷^{ダン} 科^カ 和^ワ 惡^{アク} 隣^{リン} 人^{ジン} 取^ク 想^{ゾウ} 離^リ 牧^{ボク}

咲^{サイ} 小^コ 蠶^サ 外^{ガイ} 食^{シキ} 海^{カイ} 具^ク 愚^ウ 圖^ト 愚^ウ 圖^ト 私^シ 十^{ジュウ} 歌^カ
笑^{セウ} 田^{テン} 飼^キ 道^{ドウ} 滿^{マン} 月^{ツキ} 合^{カフ} 圖^ト 都^ト 夜^ヤ 枕^{シヨウ}

一〇七

【か】 【た、を】 【は、を】 【う】

葛^カ 膏^{コウ} 飛^ヒ 越^{エツ} 可^カ 乙^{オチ} 音^{オン} 以^イ 擇^{タク} 耕^{コウ} 遠^{エン} 里^リ 小^コ 野^ノ 傍^{ボウ} 喙^{クヱ} 土^ツ 夜^ヤ
西^{サイ} 盲^{マウ} 白^{ハク} 智^チ 笑^{セウ} 訓^{クン} 便^{ベン} 爲^ヰ 捉^{ツク} 雲^{ウン} 野^ノ 傍^{ボウ} 喙^{クヱ} 土^ツ 夜^ヤ

葛^カ 柏^{ハク} 案^{アン} 潮^{ウシホ} 折^{セツ} 種^{シュウ} 奥^{オウ} 大^{ダイ} 延^{エン} 五^ゴ 云^{ウン} 六^{ロク} 五^ゴ 無^ム
野^ノ 原^{ゲン} 子^シ 路^ロ 節^{セツ} 田^{テン} し 染^{セン} 引^{イン} 蠅^{ショウ} 云^{ウン} 日^{ニチ} 月^{ツキ} 一^{イチ} 百^{ヒャク} 花^{ハナ} 果^{クワ}

甲^{カウ} 行^{コウ} 鳴^{メイ} 男^{ノウ} 鳴^{メイ} 刑^{ケイ} 邑^イ 鐵^{テツ} 延^{エン} 右^ウ 十^{ジュウ} 雅^ヤ 鳴^{メイ} 五^ゴ
斐^{ハイ} 商^{ショウ} 部^ブ 鳥^{ニョウ} 咽^{エン} 部^ブ 久^ク 漿^{ジョウ} 寺^ジ 口^{コウ} 島^{シマ} 頭^{トウ} 脚^{キョウ} 十^{ジュウ} 六^{ロク} 樂^{ラク} 頭^{トウ} 脚^{キョウ} 十^{ジュウ} 鈴^{リン} 川^{セン}

爲^カ 筒^{カウ} 一^{イチ} 寸^{スン} 八^{ハチ} 寸^{スン} 鳴^{メイ} 大^{ダイ} 十^{ジュウ} 大^{ダイ} 日^{ニチ} 右^ウ 有^ウ 獨^{ドク} 公^{コウ} 覆^{フク}
替^{カヘ} 様^{ヤウ} 呼^コ 佛^{ブツ} 佛^{ブツ} 凡^{ボン} 佐^サ 府^フ 無^ム 活^{カク} 樹^{ジュ} 子^シ 孫^{ソン} 盆^{ボン}

爲^カ 掃^{ソウ} 價^カ 越^{エツ} 巨^{キョウ} 十^{ジュウ} 萬^{マン} 淮^{サイ} 太^{タイ} 有^ウ 蘊^{ウン} 一^{イチ}
換^{カヘ} 部^ブ 值^チ 年^{ネン} 掠^{リョク} 番^{バン} 青^{セイ} 子^シ 秦^{シン} 緣^{エン} 奧^{オウ} 口^{コウ}

樂^{ラク} 好^{コウ} 衡^{コウ} 園^{エン} 鳳^{ホウ} 正^{テイ} 無^ム 會^{カイ} 有^ウ 羽^ウ 浦^ポ 一^{イチ}
府^フ 惡^{アク} 器^キ 寺^ジ 町^{テイ} 慮^ロ 者^{シャ} 天^{テン} 衣^イ 敷^キ 戶^コ

一〇六

【つ】 【ち】 【た】 【ろ】 【せ】 【す】

一^フ千^チ稠^チ一^チ假^カ澤^サ探^タ大^タ十^ト村^ソ宣^シ世^セ酒^ス都^ト替^キ
 伏^フ十^ト切^キ密^ミ寸^ソ令^レ山^シ幽^ウ魚^ウ田^タ度^タ命^メ話^ワ井^ヰ盧^ロ星^シ

四^フ十^ト院^ヰ小^コ丁^テ日^チ黃^{ワウ}達^{タツ}帶^{タイ}十^ト十^ト繞^{ビョウ}膳^{ゼン}素^ソ村^{ムラ}
 縣^{ケン}度^ド立^{タツ}昏^{コン}而^ニ刀^{タウ}盤^{パン}合^{カフ}々^々所^所的^的主^主

栗^リ花^カ落^{ラク}私^シ貞^{テイ}駄^ダ玉^ユ棚^{テウ}耽^{タン}卒^{ソツ}殺^{シヤク}瀟^{シヤウ}素^ソ宿^{シュク}
 窩^{ワカ}子^コ觀^{カン}目^メ子^コ引^{イン}溺^{ニョク}塔^{トク}婆^ハ生^{シヤウ}灑^{シヤク}敵^{テキ}利^リ

廿^ニ山^{サン}知^チ直^{チキ}内^{ナイ}間^{カン}鱈^{タウ}措^ソ善^{ゼン}瀟^{シヤウ}首^{シュ}出^{シュツ}
 夫^フ披^ヒ裏^リ人^{ニン}腹^{フク}置^シ惡^{アク}酒^{シュ}里^リ師^シ

一〇九

九^ク十^ト九^ク怛^{タン}重^{チュウ}縱^{ジュウ}丹^{タン}財^{サイ}阻^ソ孀^{シュウ}洗^{セン}素^ソ驚^{キヤウ}
 怛^{タン}複^{フク}令^レ比^ヒ部^ブ礙^{アイ}々^々濼^{ニョク}破^ハ破^ハ

九^ク折^{セツ}疇^{シュウ}地^チ團^{ダン}昔^{シヤク}太^{タイ}例^{レイ}乃^{ノウ}蒲^フ公^{コウ}英^{エイ}塑^ソ饒^{ニョウ}消^{シヤウ}素^ソ一^{イツ}日^{ニツ}市^シ
 之^シ公^{コウ}英^{エイ}像^{ゾウ}舌^{シヤク}耗^{コウ}氣^キ無^ムし

【し】 【き】

冗^{ジュウ}入^{ニツ}從^{ジュウ}從^{ジュウ}設^{セツ}石^{シキ}十^ト漆^{シキ}莊^{シヤウ}左^サ五^ゴ樂^{ラク}却^{キヤク}一^{イツ}五^ゴ
 談^{タン}内^{ナイ}容^{ヨウ}滌^{テイ}樂^{ラク}鹿^カ三^{サン}喰^ク重^{チュウ}程^{ケイ}子^コ前^{ゼン}說^{セツ}任^{ニン}月^{ゲツ}

鑠^{シヤク}緒^{シュ}四^シ十^ト月^{ゲツ}收^{シュウ}信^{シン}後^ゴ加^カ薩^{サク}沙^{シャ}有^{ユウ}相^{サウ}從^{ジュウ}五^ゴ
 金^{キン}言^{ゴン}馬^マ飲^{イン}樂^{ラク}月^{ゲツ}之^シ張^{チヤウ}汰^{タイ}繫^{ケイ}良^{ラウ}教^{キヤウ}女^{ニョ}

綽^{シヤク}進^{ジン}尋^{シン}借^{ケツ}蒐^{ソウ}入^{ニツ}參^{サン}東^{トウ}石^{シキ}乍^{シヤ}閑^{カン}相^{サウ}任^{ニン}密^{ミツ}
 々^々抄^{シヤウ}津^{ジン}問^{モン}集^{シツ}魂^{コン}差^サ雲^{ウン}橋^{キヤウ}去^コ休^{キウ}樂^{ラク}他^タ語^ゴ

紫^シ梓^シ石^{シキ}標^{ヒョウ}酒^{シュ}仕^シ鹿^カ九^ク雀^{シヤク}幸^{キヤウ}月^{ゲツ}從^{ジュウ}猿^{エン}
 宸^シ神^{シン}茅^{マウ}原^{ゲン}落^{ラク}舞^ブ爪^{シヤウ}石^{シキ}部^ブ手^{シュ}代^{ダイ}他^タ町^{チウ}

寂^{シキ}櫛^シ施^シ新^{シン}色^{シキ}倭^{ヤマト}穴^{アナ}猜^{サイ}早^{ソウ}去^コ流^{リウ}三^{サン}猿^{エン}
 滅^{メツ}比^ヒ行^{キヤウ}田^{テン}麻^マ文^{ブン}湖^コ疑^イ良^{ラウ}共^{キヤウ}石^{シキ}枝^シ島^{シマ}

使^シ七^{シチ}眞^{シン}指^シ生^{シヤウ}仕^シ如^{ニョ}岬^{シマ}左^サ秋^{シュウ}樂^{ラク}佐^サ遮^{シヤ}
 嗾^{ソツ}三^{サン}禁^{キン}鍼^{シヤク}滅^{メツ}方^フ才^{サイ}燦^{サン}樣^{ヤウ}魚^イ浦^フ分^{ブン}莫^{マク}

一〇八

【わ】 【ろ】 【れ】 【り】 【ら】 【よ】 【ゆ】 【や】 【も】

快^ク九^ク冷^レ良^リ縁^リ亂^ル止^ル依^ル忽^ニ唯^ニ矢^ハ八^ハ衆^モ
 足^ク八^ク泉^ニ治^ス氣^キ無^シ羅^シ諸^ヲ心^シ鱈^ヲ生^ル樹^ノ
 々^々鳥^ノ

四^ノ祿^ヲ列^レ隆^リ立^リ禮^ヲ四^ノ容^ヲ所^ニ鞞^ヲ安^ス家^ノ模^ヲ
 月^ノ十^ノ日^ノ杉^ノ見^ル準^ル願^フ拜^ス山^ノ隊^ヲ謂^フ負^フ樂^ヲ持^テ傲^ル

早^ク鹿^ノ龍^ノ力^ヲ六^ノ禮^ヲ黃^ノ米^ヲ萬^ノ弓^ヲ矢^ヲ野^ノ用^ヲ
 稻^ノ野^ノ木^ノ田^ノ苑^ノ山^ノ戰^ヲ藝^ヲ記^ス泉^ノ子^ノ森^ノ削^ル張^ル郎^ノ瀬^ノ

度^ヲカ^ノ六^ノ妙^ヲ與^ル虎^ノ夕^ヲ八^ノ流^ヲ勿^ク
 會^ヒ行^ク花^ヲ見^ル野^ノ草^ヲ丘^ノ敷^ル馬^ノ體^ヲ

植^メカ^ノ六^ノ五^ノ四^ノ所^ニ熊^ノ矢^ヲ躍^ル十^ノ
 田^ノ學^ヲ合^ス山^ノ願^フ以^テ野^ノ庭^ニ起^ル月^ノ

四^ノ五^ノ百^ノ森^ノ石^ノ野^ノ八^ノ角^ノ鳥^ノ
 動^ク暮^ル

【め】 【む】 【み】 【ま】 【ほ】

妻^ヲ娼^ヲ滅^ス無^シ矛^ヲ七^ノ壬^ノ箕^ノ瓶^ノ見^ル眞^ヲ賣^ル滿^ル先^ノ八^ノ
 鳥^ノ杉^ノ切^ル駄^ヲ盾^ヲ分^ル生^ル面^ヲ原^ノ舞^ヲ逆^ル僧^ノ腔^ヲ町^ノ日^ノ

目^ヲ莫^ク無^シ八^ノ彌^ノ神^ノ御^ノ木^ノ纏^ル萬^ノ十^ノ纏^ル八^ノ
 出^ル大^ノ鐵^ヲ乃^ヲ子^ノ乃^ヲ里^ノ寸^ノ八^ノ
 度^ヲ小^ノ砲^ヲ道^ヲ陀^ノ原^ノ幸^ヲ伊^ノ向^ク路^ヲ見^ル頭^ノ日^ノ

女^ヲ夫^ヲ六^ノ村^ノ滿^ル御^ノ女^ノ士^ノ萬^ノ米^ノ萬^ノ發^ル本^ノ
 婦^ヲケ^カ生^ル手^ヲ男^ノ野^ノ洗^ル川^ノ産^ル更^ル原^ノ葉^ヲ頭^ノ統^ル
 童^ノ木^ノ敷^ル雨^ノ

馬^ノ赤^ク無^シ宗^ノ名^ヲ明^ク御^ノ敏^ク十^ノ萬^ノ末^ノ發^ル法^ヲ
 察^ル比^ク暗^ク像^ヲ號^ヲ星^ノ野^ノ馬^ノ鏡^ヲ馬^ノ尾^ノ心^ノ眼^ヲ

米^ノ面^ヲ武^ノ百^ノ藥^ヲ御^ノ倭^ノ都^ノ燐^ノ狸^ノ末^ノ發^ル冒^ル一^ノ
 多^ク喰^ル附^ル足^ヲ袋^ヲ原^ノ文^ノ跡^ヲ寸^ノ穴^ノ路^ノ端^ノ頓^ル二^ノ

銘^ヲ滅^ス無^シ人^ノ神^ノ幣^ヲ御^ノ御^ノ曲^ヲ間^ヲ眞^ヲ翻^ル未^ノ
 々^々多^ク茶^ヲ苦^ク首^ノ戸^ノ田^ノ地^ノ原^ノ左^ノ調^ヲ部^ノ敷^ル人^ノ譯^ル明^ク

修養

明治天皇御製

○むらさみの心のたれの教草おひしげらせよ大和島根に
 ○あまたりにくぼみし軒の石を見て雖き業とて思ひすてめや

昭憲皇太后宮御歌

傳へ來し書ありてこそ知られけれ遠津御祖の神の稜威を
 みがかすば玉も光は出でさらむ人の心もかくぞあるべき

をり／＼に遊ぶいさまはある人の暇なしとて文よまぬかな
 ふもさなるひと木の花を知り顔に奥も分け見ぬみ吉野の原

(本居宣長)

少年易老學難成。

一寸光陰不可輕。

(澤庵和尚)

未覺池塘春草夢。

階前梧葉既秋聲。

(朱子)

盛年不重來。

一日難三再晨。

(陶淵明)

及時當勉勵。

歲月不待人。

(佐久間象山)

日暮一たび移れば、千歳再來の今なし。形神既に離るれば、
 萬古再生の我なし。學藝事業豈悠々たるべけむや。

假名遣

假名遣に二あり、一を國語假名遣、一を字音假名遣といふ。假名の發音は、元來其の出發の基本を異にして、紛ふべからざるものなりしが、慣用の久しき、假名を異にすれども、其の發音を同じうするに至り、さてこそ多くの、紛はしきものを生ずるに至れるなれ。國語の假名にして紛れ易きは、清音にて阿行、波行、和行の「い、ひ、ゐ」、「わ、ゑ、へ」、「う、ふ」、「お、ほ、を」、「は、わ」、濁音にて佐行、多行の「じ、ぢ」、「ず、づ」等なり。

國語は多く語源の意義より、字音は字形より類推して、其の假名を知る事を得。されども何れも其の假名遣の中に、最も少數なる方を記憶し置きて、他を類推によりて知るを便利とす。

1 國語假名遣

一、は・わ、

「は」「わ」は、語の上部にある時紛るゝ事なきも、語の中間若しくは下部にある時は、互に紛れ易し。

| | | | | | | | |
|-----|------|------|-------|------|---|------|-----|
| わ。 | 輪 | くつわ。 | 響(口輪) | くるわ。 | 廓 | はにわ。 | 埴輪 |
| あわつ | 惶、周章 | かわく | 乾 | かわく | 渴 | さわぐ | 騒 |
| すわる | 坐 | たわむ | 撓 | よわし | 弱 | かよわし | 軟弱 |
| ゆわう | 疏黃 | しわ | 皺 | いわし | 弱 | くわわ | 慈姑 |
| ひわ | 籊 | こわね | 音 | さわやか | 爽 | たわやめ | 手弱女 |

かひもの 買物
 くひの 棧
 たましひの 魂
 三、う・ふ、

すひもの 吸物
 あひだの 間
 めひの 姪

つひに 途
 うぐひす 鶯
 わざはひの 福

たらひ 鹽
 たひら 平

【う】 「う」「ふ」は、語の中間又は下部にある時、互に相紛れ易し。

うの歌

1 詣で 申す 首 被り 疊紙 簪 蝙蝠

うう 植、栽、飢
 かうべ 首
 まらうご 寶
 つかうまつる 奉仕
 まうけ 設、儲
 いもうご 妹
 まらうご 客人
 かうべ 神戸
 あきうご 商人

すう 据
 かうむる 被
 はうき 簪
 さうらう 候
 はうむり 葬
 はうむり 輕
 かるう 輕
 ひやうし 拍子
 こうち 小路
 かうち 河内

まうで 詣
 たうがみ疊紙 編蝠
 かうもり 八日
 やうか 漸
 やうやく 漸
 ゆかう 行
 ひうが 日向
 かうし 格子
 とうで 取出

まうす 申
 てうづ 手水
 なうし 直衣
 かうはし 香
 たうげ 峠
 まうで 參
 こうや 紺屋
 かうぶり 冠

2 奉仕る 直衣 候ふ 香しく 葬り

八日 漸く 設け

【ふ】

たふる 倒、仆
 たふとし 貴
 たふと 尊
 さうらふ 候
 あふり 障泥

さよふ 支
 あふみ 近江
 ゆふべ 夕
 あふひ 葵

あふぎ 扇
 きのふ 昨日
 あふぐ 仰、煽
 ふくろふ 梟

あやふし 危
 けふ 今日
 おふし 啞
 あふち 棟

ふの歌

扇 仰ぐ 葵 棟に 障泥 近江 今日

倒る 貴し 啞 昨日 今日

四、は・ゑ・へ、

語の上部にある時、「は」「ゑ」「へ」互に紛れ易く、語の中間或は下部にある時、三語共に紛れ易し。

【ゑ】

すゑ 据
 つくゑ 机
 こすゑ 櫛

すゑぶろ 据風呂
 つゑ 杖
 ちゑ 智慧

すゑ 陶
 末 末
 故 故

いしすゑ 礎
 すゑひろ 末廣
 うゑ 植

【九】
 いへ。家
 ひとへ。鼠衣
 あへぎ。喘
 あまつさへ。刺
 たへしのふ堪忍
 ひどへに。偏に
 かへし。返
 さへづる。帰

ねの歌
 ひね。冷
 ねもの。獲物
 のごぶね。吭
 あまね。甘
 おびね。骨

鳩
 蝶螺
 甲
 稗
 葎
 入江
 蕨
 梅が枝

かなへ。鼎
 まへ。前
 あへて。敢
 いきにへ。犠牲
 こたへ。答
 はへ。廻
 にへ。賢

はね。榮
 ねて。得手
 ひこばね。藥
 いね。癒
 きね。消

かへで。楓
 やへもの。入重
 あへもの。盡
 うつたへ。訴
 さへぎる。述
 しろたへ。白妙
 そへがき。添書

ねらぶ。運、擇
 たね。箱々
 ゆふばね。夕映
 いはね。嘶

◎九

なへ。苗
 うへ。上
 いにしへ。古
 かへる。歸、解
 ゆくへ。行方
 かへ。代
 わきまへ。辨

みね。見
 おほね。大兄
 あね。背
 おぼね。覺

【八】
 江。干支
 稗。稗
 種。種
 ひね。種
 ながね。種

るの歌
 うるき。植木
 るま。繪馬
 るふ。醉
 るまひ。笑
 るづく。嘔吐
 ゆるん。所以
 るぐる。列

酸し
 笑む
 杖
 醉ふ
 末
 彫り
 悄
 机
 故
 聲

江。入江
 干支。板
 稗。蝶螺
 種。鶴
 ひね。甲
 ながね。甲

ゑのぐ。繪具
 るた。穢多
 るがほ。笑顔
 るんじゆ。桃
 うる。飢

ねだ。枝
 ねひ。脚
 ぬひ。鶴
 ふね。笛
 もね。萌

ともる。巴
 るざる。繪探
 るる。彫
 るくぼ。聲
 こる。聲
 うるじに。餓死

◎八

下枝
 海老
 鮓
 蝦夷
 萌黄

畫
 眞
 笑
 臉
 鳥附子
 呻吟

五、お・を・は、

語の上部にある時、「お」を「な」は紛れ易く、語の中下にある時、三語共に紛れ易し。

【お】

| | | | | | | | |
|------|-------|------|-----|------|-----|------|-------|
| おく | 奥 | おこなひ | 行 | おしろひ | 白粉 | おど | 音 |
| おとうと | 弟 | おどな | 大人 | おに | 鬼 | おのれ | 己 |
| おほせ | 仰 | おや | 親 | およそ | 凡 | お | 御 |
| おくつき | 墓 | おに | 鬼 | おきて | 掟 | おそし | 運 |
| おのれ | 己 | おひ | 笈 | おもし | 重 | おる | 織、降、下 |
| おほかみ | 狼 | おくり | 送、贈 | おぼる | 溺 | おろか | 愚 |
| おりもの | 織物 | おほやけ | 公 | おはす | 御座 | おばしま | 關干 |
| おろそか | 疎 | おき | 沖 | おく | 置、起 | おい | 老 |
| おのく | 各 | おきな | 翁 | おかす | 犯、後 | おび | 帶 |
| およぶ | 及 | おだやか | 穩 | を | 芋 | をだまき | 苜蓿 |
| を | 雄 | ををし | 雄々 | をす | 小蘆 | をかは | 小川 |
| をから | 麻幹 | をさなし | 幼 | をのへ | 尾上 | を | 精 |
| をば | 伯母、叔母 | をか | 岡、丘 | を | | | |

| | | | | | |
|------|----|------|----|------|-------|
| たまのを | 玉緒 | へそのを | 臍帶 | をどこ | 男 |
| をんな | 女 | をつと | 夫 | をち | 伯父、叔父 |
| をさく | 大抵 | をかほ | 陸穂 | をさむ | 修、治、收 |
| をさく | 大抵 | をぎ | 荻 | をこたる | 意 |
| をさく | 大抵 | をち | 遠 | をちち | 遠近 |
| をさく | 大抵 | をさく | 踊 | をの | 斧 |
| をさく | 大抵 | をさく | 折敷 | つらら | 九折 |
| をさく | 大抵 | をさく | 折敷 | をし | 鷺鷥 |
| をさく | 大抵 | をさく | 折敷 | をろち | 大蛇 |
| をさく | 大抵 | をさく | 折敷 | をひ | 甥 |
| をさく | 大抵 | をさく | 折敷 | をしむ | 惜 |
| をさく | 大抵 | をさく | 折敷 | をかす | 犯 |
| をさく | 大抵 | をさく | 折敷 | をし | 愛 |
| をさく | 大抵 | をさく | 折敷 | ふな | 船長 |
| をさく | 大抵 | をさく | 折敷 | をはる | 終 |
| をさく | 大抵 | をさく | 折敷 | みさを | 操 |
| をさく | 大抵 | をさく | 折敷 | いさを | 功 |

をの歌

いさをし 綾
 たをやめ 手弱女
 めをと 夫婦
 いをのめ 肌
 こをばい 紅梅
 たをみ 挽
 しをらし 柔順

しをり 柴
 たけを 猛夫
 あを 青
 かつを 鱧
 ばせを 芭蕉
 たをむ 挽

しをる 妻
 ますらを 丈夫
 うを 魚
 しらを 白魚
 やをら 徐
 あをむく 仰

かをる 蕪、香
 みやびを 風流男
 いを 魚
 ひを 水魚
 たをやか 蟬娟
 まをす 申

1 男女 夫 一昨日 甥 少女

2 教へ 踊り 戦き 折り 終る

3 竿 操 添 魚 功 十 青し

柴 萎る 薫り 手弱女

【ほ】

いきほひ 勢
 おほし 多
 おほやけ 公
 こほり 氷、郡

こほろぎ 蟋蟀
 いはほ 塵
 どほる 通
 いほ 塵
 なほし 直

かほ 顔
 ほのほ 媚
 おほせ 仰
 にほふ 臭、匂
 なほざり 等閑

なほ 猶
 ほほ 頻
 きほふ 競
 もよほす 催
 おほかみ 狼

ほほづき 酸漿
 どほし 遠
 しほ 潮、鹽
 おほきさ 大
 しほで 牛尾菜

六、づ、ず、

「づ」、「ず」は、語の上、中、下にある時、互に紛れ易し。

【ず】

もず 百舌鳥
 かず 數
 ずず 錫
 ずし 涼
 いしずる 礎
 はずみ 機
 ひずむ 蚕
 ずはね 氣條
 ずず 篠

はず 管
 きず 疵
 ずずり 現
 あんず 杏
 たずむ 佇
 ずすな 大根
 たずまひ 機子
 ずず 數珠
 ずず 鬘華

やはす 矢筈
 くず 葛、國柄
 ずすき 鱧
 かならず 必
 なずらふ 進
 ずすしろ 菘
 ます 混、交、雜
 ずさ 從者

みず 蚯蚓
 ずす 鈴
 ずすめ 雀
 こずる 檜
 ねずみ 鼠
 ずすろ 漫
 ゆず 柚子
 ずす 誦

ずの歌

百舌鳥 蚯蚓 警華 數 疵に 葛 矢筈
必ず 鼠 すゝといふ假名

【づ】

| | | | | | | | |
|------|-----|------|---|-------|------|-------|-------|
| みづ | 水 | うづ | 湯 | あづき | 小豆 | くづる | 崩 |
| かづら | 葛 | みづから | 自 | おのづから | 自 | ひいづ | 秀 |
| あづま | 東 | まづ | 先 | きづく | 氣附、榮 | いづ | 出 |
| うづ | 層 | よづ | 攀 | ゆづる | 讓 | ゐづ | 井筒 |
| めづむ | 埋 | なづ | 撫 | さへづる | 聽 | うづだかし | 堆 |
| わづか | 纒、僅 | うづら | 鴉 | はづ | 恥 | おづ | 怖 |
| にづくり | 荷作 | さづくら | 授 | つづら | 葛籠 | しづか | 靜 |
| たづさふ | 携 | めづらし | 珍 | けづる | 梳、削 | こづかひ | 小遣、小使 |
| あづかる | 預 | かづく | 被 | みづうみ | 湖 | しづむ | 沈 |
| | | | | わづらはし | 煩 | つづまやか | 約 |

七、じ・ぢ

【ぢ】

「じ」「ぢ」「ぢ」は、語の上中下にある時、互に紛れ易し。

ぢの歌

氏 汝 街 筋 臂 鍛冶に 螺旋 紅葉 藤

| | | | | | | | |
|-----|-----|------|------|------|------|------|--------|
| ぢ | 路 | ぢ | 小路、街 | すぢ | 筋 | うち | 氏 |
| ひぢ | 臂、肘 | ぢだんだ | 地踏踏 | ぢい | 祖父、爺 | をぢ | 伯父、叔父 |
| ぢい | 不潔 | あぢ | 味 | あぢ | 鯨 | かぢ | 梶 |
| かぢ | 楮 | かぢ | 鍛冶 | かぢ | 蛇 | もみぢ | 紅葉 |
| わらぢ | 草鞋 | みそぢ | 三十 | よそぢ | 四十 | なめくぢ | 蛞蝓 |
| くら | 鯨 | すぢ | 條 | ふぢ | 藤 | ねぢ | 螺旋 |
| ひぢ | 泥 | こぢぢ | 琴柱 | ふぢな | 蒲公英 | ふぢば | かま藤袴、蘭 |
| なんぢ | 汝 | ちぢぢ | 縮 | ねぢく | 伎 | どぢて | 閉 |
| はぢて | 恥 | ねぢて | 捻 | もぢる | 振 | おぢて | 怖 |
| ひぢて | 濡 | かうぢ | 麴 | あぢさゐ | 紫陽花 | てぢか | 手近 |

【じ】

| | | | | | | | |
|-----|----|-----|---|-------|----|--------|---|
| はじめ | 始 | ひじり | 聖 | あるじ | 主人 | かたじけなし | 忝 |
| きじ | 雉子 | しじみ | 蜆 | いちじるし | 著 | みじかし | 短 |

五、いう・ゆう・いふ、

ゆう、勇 融 雄 裕 熊
いふ、邑 挹 悒 揖

〔注意〕 此の外は、大方いうの假名なり。いゆう、は、いうと書くも妨げなし。

六、かう・こう・かふ・こふ・くわう、

こふ、劫 怯 業 狎 合 治 裕 盍
かふ、甲 匣 鳴 狎 合 治 裕 盍
こう、后 垢 逅 侯 候 喉 猴 叩 闔
くわう、鉤 溝 溝 肯 興 厚 後 孔 吼 虺 互 貢 苟 楹

くわう、

〔注意〕 此の外は、大方かう(かう)の假名なり。

七、きう・きふ、

きふ、及 汲 吸 級 笈 泣 給 翁 急
〔注意〕 此の外は、大方きう(きう)の假名なり。
きう、求 裘 毬 球 救 九 仇 鳩 究 久 玖 灸
弓 穹 躬 窮 宮 牛 糾 丘 休 廐 嗅 覲

八、きやう・けう・けふ・きよう、

けう、喬 橋 驕 叫 窳 傲 臯 敎 皎 堯 僥 曉
けふ、翹 驍 驕 叫 窳 傲 臯 敎 皎 堯 僥 曉

きよう、業 夾 狹 狹 俠 筈 峽 怯 脅 切

共 供 拱 恭 恐 兇 恟 兇 胸 興

九、さう・さふ・りう、

〔注意〕 此の外は、大方さう(さう)の假名なり。

さふ、挿 匝 雜 颯 送 忽 叢 宗 崇 綜 踪 曾
さう、僧 增 贈 憎 層 走 叢 宗 崇 綜 踪 曾

十、しう・しふ、

〔注意〕 此の外は、大方しう(しう)の假名なり。

しふ、習 摺 褶 揖 葺 楫 輯 拾 執 集 襲 濕
しう、澁 十 什 汁 葺 楫 輯 拾 執 集 襲 濕

十一、しやう・しやう・せう・せふ、

〔注意〕 此の外は、大方しやう(じやう)の假名を用ふ。
しやう、鍾 鐘 腫 腫 暈 衝 松 訟 頌 誦 春 悚 竦

せう、
簀 蹤 稱 誦 升 乘 昇 陸 證 勝 承 冗
丞 蒸 繩 葉 乘 剩 稍 消 哨 宵 霄
小 少 抄 杪 鈔 肖 梢 稍 消 哨 宵 霄
逍 確 銷 召 招 昭 照 韶 韶 韶 宵 霄
蕉 憔 推 礎 笑 椒 燒 饒 蕭 簫 嘯
瀟 擾 推 礎 笑 椒 燒 饒 蕭 簫 嘯

十二、たふ・たふ・どう、
〔注意〕此の外は、大方たふ(たふ)の假名なり。

たふ、
答 塔 荊 杏 踏 納 襦 撮 攝
東 凍 棟 洞 董 冬 冬 冬 冬 冬
頭 兜 透 竇 登 藤 籐 等 騰 騰
同 桐 銅 洞 洞 洞 洞 洞 洞 洞
動 働 働 働 働 働 働 働 働 働
〔注意〕此の外は、大方たふ(たふ)の假名なり。

十三、ちやう・ちやう・てう、
〔注意〕此の外は、大方ちやう(ちやう)の假名なり。

ちやう、
重 冢 塚 寵 微 澄 懲 趙 詔 窶 挑
朝 嘲 潮 兆 晃 超 貂 貂 詔 詔 窶 挑
桃 窶 潮 兆 晃 超 貂 貂 詔 詔 窶 挑
雕 鳥 鳶 眺 眺 眺 眺 眺 眺 眺 眺
てふ、
蝶 蝶 蝶 蝶 疊 帖 貼 褶
〔注意〕此の外は、大方てふ(てふ)の假名なり。

十四、ちふ・ちゆう・ちゆう、
〔注意〕此の外は、大方ちゆう(ちゆう)の假名なり。

ちゆう、
執 繫 中 仲 沖 仲 忠 衷 注 柱 註 駐 蟲 株
誅 蛛 厨 厨 厨 厨 厨 厨 厨 厨 厨 厨 厨 厨 厨 厨

十五、なふ・なう・のう、
〔注意〕此の外は、大方なう(なう)の假名なり。

なふ、
納 衲 濃 膿 穢 醜 能
のう、
農 濃 膿 穢 醜 能

十六、にふ・にう、
〔注意〕此の外は、大方にう(にう)の假名なり。

にう、
入 乳 糶
にふ、
柔 乳 糶
十七、ねふ・ねう・にやう・によう、
ねふ、
捻 捻 繞 遠 饒 溺
ねう、
尿 繞 繞 遠 饒 溺
にやう、
嬢 娘 繞 遠 饒 溺
によう、
女 娘 繞 遠 饒 溺

十八、はう・はふ・ほう・ほふ

はふ、法 法
ほふ、法 乏
ほう、奉 蓬 捧 峰 体 逢 烽 鋒 蜂 縫 鳳 龐

〔注意〕此の外は、大方ほうの假名なり。

十九、へう・ひよう・ひやう、

邦 某 帽 剖 朋 崩 鵬 菩 矛 脾 褒 貿

へう、豹 表 儀 標 漂 嫖 票 瓢 颯 廟 苗

ひよう、水 馮 憑 渺 颯 颯 票 瓢 颯 廟 苗

ひやう、兵 并 平 坪 萍 評 屏 病 鈺

二十、まう・もう

もう、毛 毳 蒙 濛 朦 蒙 幪 票 幪 廟 苗

〔注意〕此の外は、大方まうの假名なり。

二十一、めう・みやう、

めう、苗 猫 妙 眇 渺 廟

〔注意〕此の外は、大方みやうの假名なり。

二十二、やう・いふ・いふ・よう、

やう、葉 暎 齧 謠 要 腰 燿 曜 耀 天 灰 幺

よう、幼 窈 拗 杳 蛹 踊 庸 備 容 溶 蓉 擁

二十三、らう・らふ・ろう、

らふ、拉 蠟 臘 縷 鍺 弄 瓏 籠 漚 臚 隴

らう、婁 樓 樓 陋 漏 縷 鍺 弄 瓏 籠 漚 臚 隴

〔注意〕此の外は、大方らうの假名なり。

二十四、りう、りふ、

りふ、立 笠 粒 榴 流 旒 柳 劉 隆 隆 蔭 龍

りう、溜 溜 榴 榴 流 旒 柳 劉 隆 隆 蔭 龍

〔注意〕リゆは、りうと書くも妨げなし。

二十五、りやう・りよう、

れふ、僚 僚 遼 療 瞭 寮 撩 寥 寥 了 料

れう、聊 僚 僚 遼 療 瞭 寮 撩 寥 寥 了 料

りよう、凌 陵 稜 綾 龍 楞

〔注意〕此の外は、大方りやうの假名なり。

〔注意〕
 むさんとは、今や其の區別わがたくなりぬ。殆んど混同するの傾きありされど、正しくは、以上の如く書くはむにして、他は大方人の假名なり。

枕 龔 談 髯 謙 儼 織 簪 膽 炎 甘 棧
 三 酣 譚 潭 覃 姪 陰 簪 麟 琳 深 溇
 心 深 吟 林 曇 柑 添 縑 慚 參 瘠 霖
 臨 森 南 聃 聃 聃 聃 聃 聃 聃 聃 聃
 男 藍 潛 閣 聃 聃 聃 聃 聃 聃 聃 聃
 鎌 擔 擔 閣 聃 聃 聃 聃 聃 聃 聃 聃
 闈 涵 蟬 琴 庵 藍 罽 罽 罽 罽 罽
 峯 擒 欽 歆 禽 紕 紕 紕 紕 紕 紕 紕
 今 衿 誦 歆 參 食 耽 嚴 占 矧 銛 堪 衾
 今 衿 誦 歆 參 食 耽 嚴 占 矧 銛 堪 衾

孔子三則

一、吾嘗終日不食。終夜不寢以思無益。不知學也。
 生而知之者上也。學而知之者次也。
 二、困而學之又其次也。困而學之又其次也。
 困而不學民斯爲下矣。
 三、君子有三戒。少之時血氣未定。戒之在色。及其壯也。血氣方剛。戒之在鬥。及其老也血氣既衰。戒之在得。

大正五年二月二十五日印刷
 大正五年四月十三日發行

著者 手島繼藏

發行兼印刷者 愛須藤太郎

印刷所 合名 秀文社

發行所 合名 秀文社

複製 不許

神戸市相生町四丁目百十九番屋敷
 神戸市相生町四丁目百十九番屋敷
 電話本局一四六四

47

終